



三國通覽圖說

圖五枝附

全  
共六冊

№ 3  
1547  
1







三國通覽圖說序



圖說之用其博矣哉義皇西  
卦易道以起夏后周鼎九志  
以顯若乃秦府所藏漢相所  
收知彼天下阨塞戶口多少土  
地風氣之殊異民俗吏治之利  
苦鳥獸草木之所產衣服苦



具之所用皆聚諸此燦然明  
備如足至其土目觀其物唯圖  
書之功也豈不博且大哉今見  
林氏所著三國圖說溥海之  
外萬里之遼波濤所阻舟航  
所途皆載此書而其土地之殊  
風俗之別職貢之法服屬之事

至我賓接之禮羈縻之道詳  
悉審到先所謂足其土目其  
物此書有焉是豈一家所秘  
一人所玩哉刊之行於天下或  
藏之御府為後王遇詩夷狄  
之法亦豈不美哉  
國家有文之治繼跡夏鼎九



物之錄周官職方說則此書之功一世尊奉千歲尸祝可不謂偉哉因其請序言圖記之用為弁數言者尔天明丙午之夏東都侍御醫

桂川甫埒國瑞



三國通覽圖說

題初

大哉地理ノ肝要ナルヲ蓋廊廟ニ居テ国事ニ與ル者地理ヲ不知片ハ治乱ニ臨テ失有。兵士ヲ提テ征伐ヲ事トスル者地理ヲ不知片ハ安危ノ場ニ失有。跋涉スル者地理ヲ不知片ハ遲速ノ際ニ失有。人々能思惟スベシ。是ヲ知テ難キニアラズ。是ヲ知テ難キニアラズ。抑世ニ地理ヲ言者不少。然レ凡或ハ萬國ノ圖ニ走り亦ハ本邦ノ地ニ限レリ。小子竊ニ憶。皆過不及。欵ト此故ニ今新タニ本邦ヲ中ニシテ朝鮮。琉球。蝦夷。及ビ小笠原嶋即伊豆無人嶋也等ノ圖ヲ明ス。小子微意アリ。夫此三



国ハ壤ヲ本邦ニ接シテ實ニ隣境ノ国也。蓋本邦ノ人無貴賤無文武知ベキモノハ此三国ノ地理也。是ヲ諳ルハ治乱ニツイテ不迷不疑。萬機施シ易シテ時有テカヲ陳ベク時有テ知テ樂ムベシ。且政ニ從テ三国ニ入ル人有レ此図ヲ懷ニスルハ三国ノ分内了然トシテ目睫ニ在カ如ク恭然トシテ彼コニ至ルベシ。是小子此図ヲ作テ世人ニ示ス所ナリ。小ク武術ニ補アルニ似タリ。

萬国ノ輿地知ニ如ハナシ然レモ強テ泥ムハ必鑿鑿ス。只其方位大小寒暖強弱等ノ大畧ヲ知テ足ベシ。

本邦ノ図ハ只其四方渡海ノ国ノ港口耳。圖シテ全形ヲ不舉。

是元ヨリ本邦ノ全圖也。世ニ多クシテ且近頃水府ノ赤水著ス所ノ詳密ノ図アル故也。本邦ノ地理ヲ知ント欲スル者ハ赤水ノ図ニ因ベシ。

此數国ノ図ハ小子敢テ杜撰スルニアラズ。朝鮮ノ図ハ朝鮮大象胥ノ傳ル所ノモノ。崎陽人楢林氏秘藏ノ珍圖アリ。是ヲ以テ據トス。琉球ハ元ヨリ中山傳信録アリ。是ヲ證トス。蝦夷ハ古ヨリ自己有スル所一圖アリ。今又新々ニ三圖ヲ得タリ。大同小異ナレモ皆以テ證トスルニ足レリ。加之白石先生ノ蝦夷志及<sup>カ子ホリ</sup>ビ淘金家ノ著セル北海隨筆等ヲ以テ考定メ間亦北海舟人ノ說ヲ交記ス耳。無人嶋ハ崎陽ノ嶋



谷家ノ記録ニ據レリ一モ私照ナシ且男入部ノ高麗ノ  
三国海陸道路ノ里数ハ皆本邦ノ道法三十六町一里ヲ以テ  
記ス異國ノ道法ヲ不用是本邦ノ人曉シ易カラシ爲メ  
朝鮮ハ清ノ法ニ倣テ本邦ノ三町半許ヲ以テ一里ト  
ス朝鮮ノ十里ハ即本邦ノ一里ナリト知ヘシ琉球ハ  
即本邦ノ三十六町一里ヲ用ユ蝦夷ハ本邦ノ四十九  
町ヲ以テ一里ト爲ト云凡其國元ヨリ都城驛亭等ノ  
處ナキ故其里数ヲ量リ定メタル人モ無レバ其詳ナ  
ク前ルヲ得テ不可知ク此ニ記ス所ハ其乘馴タル舟人ノ  
說ニシテ大概ノ測量ナリト知ベシ

朝鮮琉球蝦夷及ビ小笠原嶋并ニカラフトラツコ嶋カムサ  
スカ等數國接壤ノ形勢ヲ見セシメン爲ニ別ニ一面數國  
ノ小図ヲ作テ四圖ニ相合シテ都テ五圖トス此小図ヲ見  
テ接壤ノ方位ヲ知ベシ

計五首

天明五年乙巳秋九月

仙臺

林子平述





上毛桐生村  
長澤純藏書

天照正平... 國圖ハ別ニ一枚ニ作テ此卷ニ附

○朝鮮 八道 國圖ハ別ニ一枚ニ作テ此卷ニ附

其國九州ノ北ニ在。肥前國唐津ヨリ壹岐嶋江海上十三里。壹岐嶋ヨリ對馬嶋江海上四十八里。對馬嶋豊ノ浦ヨリ朝鮮ノ東港。釜山浦江四十里ト云。此四十里ニ不足ク其國南北ニ斜ニ長ク東西ニ陟シ大概南北日本道三百里。東西八九十里ノ國也。其國三十五度ヨリ四十三度ニ係ル。○釜山浦ハ三十六度。王都ハ三十八度。古代新羅高麗百濟ト云亦ハ三韓ト云或ハ雞林樂浪ナドニ云シモ今ノ朝鮮ノリク



其国ノ西方ト北方ニニ、ノ長江アリ即チ朝鮮地境ノ盡ル処也。此両江ノ中間ニ白登山、長白山等ノ大山有テ地勢ヲ隔ル故。唐山ト陸地ノ通路ハ無之ト云。凡其實ハ遼東ト地續ニシテ離レ嶋ニハアラズ

其国ノ両都ト云ハ京畿道ノ王城ト慶尚道ノ晋州ニ○国ヲ

八道ニ分ツテ左ノ如シ

京畿道 二十八管 四牧、九府、八郡、五令、十二監、六驛、六堡、海水

軍判官二、番船九艘、中船九艘、水使一、檢使一、萬戸二、

江原道 二十六管 一牧、六府、七郡、三令、九監、四驛、五堡、檢使一、

萬戸二、

黃海道 二十四管 二牧、四府、七郡、四令、三驛、七堡、兵使一、檢使

三萬戸五、

忠清道 五十四管 四牧、一府、十一郡、一令、三十七監、六驛、六堡、

番船二十艘、中船二十艘、兵使一、虞候二、

全羅道 五十七管 四牧、四府、十二郡、六令、三十一監、六驛、十八

堡、番船四十二艘、中船十二艘、兵使二、水使二、虞候二、檢使四、

萬戸十三、權官一、

慶尚道 六十九管 四牧、十一府、十四郡、一令、三十四監、十一驛、

二十四堡、番船五十六艘、中船五十一艘、兵使二、虞候二、水使

二、檢使二、萬戸十九、權官六、



平安道 ベアン 四十二管 十二牧 十府 十七郡 八令 五監 二驛 十八堡 兵

使一 虞候一 判事一 檢使十一 萬戶七 權官二十九

咸鏡道 ハミキヤン 三十二管 二牧 十五府 四郡 二監 三驛 三堡 北兵使一

南兵使一 虞候二 檢使十二 萬戶十八 權官二十一

都テ八道也

此国ノ西邊義州ヨリ遼東 江 至ル 日本道五十里 北京 江 至ル

同二百五十里也

此国大閣征伐ノ頃 追ハ風儀懦弱ニシテ 武備ノ沙汰モ當也

ト如クニ無リシ故 八道ヲ只三ヶ月ノ間ニ陥レラレ 其後大

ニ悔懲シト覺ヘテ 代々武ヲ講シテ 今ハ水陸ノ備 能整リ

ト聞及ベリ 水營モ十四ヶ處有テ 平生水戰ヲ習ハシムト

云リ 况ヤ陸ヲヤ 是等ノ一ハ 俗諺ノ雨降テ地堅マルト云

譬ノ如シ

釜山浦ニ對馬ノ陣屋有テ 平生士卒數百人ヲ對州ヨリ遣シ

置ク 此等ノ一即チ日本 江 手ヲ下シ 所ナルヘシ

其国常行ノ錢ヲ常平通宝ト云 小錢十ニ當

其国全ク清正朝ヲ奉レ 本邦ト通信ス 書ニ憚テ 清ノ年号ヲ不用

只支干ヲ記シテ 某月ト書スルニ 是亦日本ヘ手ヲ下シ 所ナルベシ

其国ノ人物ハ都テ日本唐山等ノ人ヨリ 壯大ニシテ 筋骨モ

ツヨシ 食量モ大概日本ノ二人ノ食ヲ朝鮮ノ一人ニ充ベ



シ然レ其心機アクマテ遲鈍ニシテ不働之此故ニ太閤ノ征伐ニヨク負タリ

其国ニテ作レル文字ヲ諺文ト云。一字一音之是ヲ本邦ノ以呂波ニ配スレバ其文左ノ如シ

ム	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑
ム	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑
ム	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑
ム	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑
ム	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑
ム	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑
ム	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑
ム	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑
ム	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑
ム	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑	丑

右傳寫ノ誤モアルベキナレ其傳ラレシ終ニ書記ス也識者ノ比校ヲ侍ベシ

此国ノ人物ハ代々本朝ニ來聘シテ諸人ノ見ル所ナレバ其人物ノ因ハ不舉○朝鮮王ヨリ奉幣ノ物ハ人參虎皮豹皮青黍皮魚皮繻子白綿紬舊子駿馬等之其報物ハ貼金ノ屣風描金ノ鞍擦金料紙箱同硯箱染羽二重乱茶字ノ類之正使副使從事ノ三使ハ各白銀五百枚綿三百把上々官ハ白銀二百枚ツ中下官ノ者ハ銀千枚ヲ賜フ之是猷酬ノ大畧也  
鴻荒ノ世ニ其国ヲ開ク者ヲ檀君ト云世ヲ續ク千余年其後唐山ヨリ入テコレヲ治ルハ箕子ヲ始トス初テ朝鮮ノ号



アリ箕子ニ代テ其地ニ王タル者ヲ衛滿ト云其後孫或ハ唐山入或ハ不入終ニ内乱シテ其国分レテ三トナル所謂三韓也其後新羅二韓ヲ滅シテ一統ス又其後高麗ノ王氏新羅ヲ滅シテ一統ス又其後高麗ノ李氏王氏ニ代テ三韓ヲ統有テ再ビ朝鮮ノ号ニ復シテ今ニ至レリ都テ上檀君ヨリ下今世ニ至ル迄ノ事及ビ神功皇后征伐以来其国代々本朝ニ調庸貢獻シタルアリサマ又ハ太閤征伐ノ事ナド悉ク記スベキナレバ文長ケレバコレヲ畧ス且其治乱興廢ノ詳ナルヲハ東国通鑑アリコレニ由テ知ベシ

右朝鮮畧説

○琉球三省三十六嶋 国図ハ別ニ一枚ニ作テ此卷ニ附

琉球一名龍虬或ハオキ惡鬼納嶋亦屋其惹嶋

其国南北五日半日本道六十里許 東西一日余日本道十五里 此外ニ三十

六嶋アリ

中山ヲ中頭省ト云属府十四

山南ヲ嶋窟省ト云属府十二

山北ヲ国頭省ト云属府十

其国北極ノ出地二十五度二十六度ニシテ女牛ノ分野也

其国薩摩ノ南百四十里ニアリ

奇畧大嶋徳ノ嶋等ヲ薩人道ノ嶋ト称ス



其国。主城ノ在地ヲ首里ト云

其国。暖氣ニシテ稻粱再熟シ冬月霜雪ヲ不知ク

其国。郭府ノ在所ヲ間切ト称ス

其国。王子ト称スルハ主ノ子弟也。位正一品○按司ハ在所持

ニテ處々ノ領主也。本邦ノ大名ノ如キモノノ位従一品大

采地二千石也。○三司官親方ト云ハ天曹司一員地曹司一員人曹

司一員是即本邦ノ三公ノ如キモノノ位各正一品○親方

ト云ハ位従二位○親雲上ト云ハ三品ヨリ七品マデ各正

従アリ○里之子ハ一村一郷ヲ領スル貴族ノ嫡子ニテ部

屋住ノ位正従八品○筑登之ハ正従九品

其国。常行ノ錢ハ本邦ノ寛永通宝也古ヨリ国

其国。小ニシテ日本。唐山カ兩大国ノ間ニ攝ハサル然ル故ニ兩國ニ

服従シテ兩朝江聘使ヲ奉ル日本江聘スルニハ日本ノ年

号ヲ用ヒ唐山江聘スルニハ唐山ノ年号ヲ用ユ其国力不

足バ之然レ氏唐山江聘スルヲバ日本江不秘日本江聘

スルヲバ唐山江秘ス是ヲ以テ見レバ唐山ノ威權日本

ヨリ重シ氏言ベキ歟

其国中ニ伊勢大神宮。八幡。熊野。天満宮。等ヲ祠リシ社。数多ア

リト云リ

今ノ琉球国主ハ正シクハ郎爲朝ノ血脉ナリト其国人モ称



スル由也。琉球開闢ノ主ハ天孫氏ト云テ世々国主タリ。世ヲ續了數千年。徳衰テ諸按司コレニ叛クツイニ賊臣ノ爲ニ弑サレテ其位ヲ篡ハル添浦按司其賊ヲ誅ス。國人コレヲ推テ君位ニ登ラシム。是ヲ舜天王ト云。主ハ即日本国鎮西八郎爲朝ノ子也。其母ハ大里按司ノ妹也。二條帝ノ永萬年中。爲朝海ニ浮テ遊テ琉球ニ至ル。国人其武勇ニ畏レ服ス。ツイニ大里按司ノ妹ニ相カタライテ舜天王ヲウム。是則異朝ニテハ宋ノ孝宗ノ乾道二年ノ了。其後爲朝。故土ヲ思フ心禁ジガタク。終ニ日本江飯レリ。爲朝。日本江飯ルノ後ハ其母ニ從テ添浦ニテ成長ス。十六歳ニシテ菴量膏

柄常人ニスグレシカバ。国人ノ爲ニ推貴ビラレテ添浦ノ按司トナリ。二十二歳ノ時乱賊ヲ誅シテ国主トナレリ。是ヲ始トシテ今ノ世。迨其統脉綿連トシテ变革ナシト云リ

- 第一舜天王在位五十一年薨壽七十二
- 第二舜馬順撫在位十一年
- 第三義本在位十一年
- 第四英祖在位四年
- 第五大成在位九年
- 第六英慈在位四年
- 第七玉成在位三十三年



第八亞威在位十三年

第九察度在位四十六年

此時代中山ノ主始テ明ノ封爵ヲ受○明ノ太祖洪武二十八年○本朝後小松帝應永二年

第十武寧在位十年

第十一尚思紹在位十六年

第十二尚巴志在位十八年

此時代山南山北ヲ合セテ中山一統ノ琉球トナル

第十三尚志在位五年

第十四尚思達在位五年

第十五尚金福在位四年

此時代琉球人來テ義政將軍ニ物ヲ獻ス是ヨリシテ其國人年々揚州兵庫ノ浦江來テ交易ヲナスト云琉球使ノ本朝ニ來ルハ此時ヲ始トスベシ後花園帝ノ宝徳三年也

第十六尚寧威在位六十月

第十七尚真在位五十年

第十八尚清在位二十九年

第十九尚元在位二十九年

第二十尚寧在位三十二年

此時代国主薩摩ノ軍ニ生捕レテ本朝ニ在リ凡四年ニシ



テ国ニ飯ルヲ得タリ此時ヨリ世々本朝ニ臣服ス○明  
神宗ノ萬曆三十七年○本朝後陽成帝ノ慶長十四年也

第二十一尚豊在位二十年

第二十二尚賢在位七年

第二十三尚質在位二十一年

第二十四尚貞在位四十一年

第二十五尚益在位三年

本朝正徳二年薨○是ヨリ後今世迄四主ノ名字及ビ在位  
ノ年数等不詳追加スベシ  
其国主代替ノ氏ハ本邦ヨリ嗣封ノ儀ヲ命セララルコナリ亦

清主ヨリモ嗣封ノ儀ヲ命シテ冊封使ヲ遣シ印璽ヲモ賜  
フ其印文左ノ如シ猶委キテハ中山傳信録及ビ琉球事  
畧等ニ詳ナリ



琉球国  
王之印

左ハ滿右ハ篆大廿如圖



前文ニ言シ如ク清主ヨリハ冊封使ヲ遣シ印璽ヲ與ヘラルレバ  
只一代一度ノ大礼耳ニシテ平生唐山ニ馴親マサル故ニ唐山  
ノ事ニハ習ハサルニ本邦トハ境モ近ク其上薩琉ノ交リシゲキ  
故自然ニ大國ノ風ニ化セラレテ今ハ其國ニテ謡ヲモウタイ能  
噺子ヲモ奥行シ或ハ大橋玉置等ノ日本流ノ書法モ行ハレ  
又本邦ノ平假名ヲ其國一統ニ用ルニ然ル故ニ和歌ヲモヨミ  
覺ヘシ由ニ近ゴロ明和元年ニ來聘使多リシ讀谷山王子朝恒ノ  
詠ゼシ和歌アリ聞シ終ニ此ニ記ス琉球ノ本邦ニ化服シタル  
ヲ推テ知ベシ

明和元年此秋賀慶の使として武藏の國へ趣ける時

肥前の松浦といふ所不至里追風あくて十日余リ舟を  
辭へ停し以よめる

本陣即ハ本陣ハ字ニ燒ト云ハ姑其ト讀谷山王子朝恒ト

追手ぬく風のぬよりを松浦くそ歳夜くき寝此数つものらん

伏見の里は月を見て

同

いづもくくありきものう草海くさひとるやこの夜半の月うけ

深草よて

同

降雪まうつらの床はうもれて冬も何れあふくさ此さき

不二山を

同

人問はくはくかまらん言の葉も及ぬやの雪はあけは乃



浮嶋が京まで

同

みの根に雪吹お移は風見へて一むらくもふ浮島はらむら  
霜月の初つゝ武藏の国に至りうの取は月を見て

同

旅の海ももろく来ても故さやふくくぬも乃をむら月け

祝

同

波うせとかさほる君の御代あれもみち遠くぬ日の本は国  
右朝恒ハ本朝ノ学ニ熟シタル故其ヨミ歌モ和歌ノ躰ヲ  
備ヘタリト云リ下ノ一首ハ先年八丈嶋へ漂着シタル琉ノ大嶋  
船主ノ歌ハ本朝学ニ不熟ナル故悉ク片言ニシテ通シ難シ傍

訓ヲ見テ歌ノ意ヲ知ベシ其歌ハ豆州御代官ノ芳意ニア  
ツカリシヲ謝スル意也

中栄 ナカエ 大嶋人の中栄  
ハ其名ナリ

かぐれ舟故御上御極御拜御仰御得御嬉御キ御ナリ

右一首ハ琉ノ邊土迄モ本朝ノ風ニ化シタル證ヲ見スル為ニ奉ル也  
其国ノ人物ハ時々本朝ニ来聘ニシテ諸人ノ見ル所ナレバ其凶ヲバ奉ガ  
ルナリ○琉球主ヨリ進献ノ物ハ太刀駿馬壽帶香龍涎香香餅  
太平布芭蕉布青貝阜羅紗縮緬泡盛酒等ハ其報賜ハ白銀五  
百枚綿五百把正使ハ銀二百枚時服十惣人数ハ銀三百枚ヲ賜フ



是猷酬ノ大畧也

鴻荒ノ世ニ其国ヲ開ク者ヲ天孫氏ト云也。續テ数千年。徳衰テ内乱シ其国分レテ三トナル所謂山南中山山北之其後中山ノ主山南山北ヲ合テ一統シタリ。又唐山ノ冊封使其国ニ至レル式。或ハ郎為朝其国ニ入シ事跡。又ハ其国或ハ唐山ニ入。或ハ本邦ニ入シ。又ハ其国薩摩ノ軍ニ破ラレシ次第等詳ニ記スベキナレ。凡地圖ニ因ナキヲナレバ不書。且其治乱興廢ノ詳ナルハ中山傳信録及白石先生ノ琉球事畧アリ。此二書ニ因テ琉球古今ノアリサマヲ知ベシ。

右琉球畧説

蝦夷

国図ハ別ニ一枚ニ作テ此卷ニ附

其国奥州ノ北ニ在テ津輕ノ竜飛崎南部ノ大間ヶ嶽等ヨリ只一條ノ海水ヲ隔ル耳也

其国凡四十三度ヨリ五十一二度ニ係テ大寒地也。大概南北日本道三百里。東西一百里許ノ国也。然レ凡東西ハ屈曲廣狭一ナラズ石カリ。イブツノ處ニテハ僅ニ二十四五里ニシビル、ナリ

蝦夷一洲ノ地ヲ五部ニ分ツ

松前七十里ノ地ハ五部ノ外ナリ

○ハラキヨリキイタフ迄直徑日本道百七十八里ヲ東ノ部ト云聚落五十一在

東部ヲ夷語ニメナシクルト云メナシハ東ニクルハ猶部衆ト云カ如シ



○キイタフヨリウラヤシベツ迄直徑八九十里許ヲ東北ノ部ト云聚落七在

○ウラヤシベツヨリツウヤ迄北西江廻ツテ百四五十里ノ地ヲ北ノ部ト云聚落四在

○ツウヤヨリウスベキ迄直徑二百余里ヲ西ノ部ト云聚落四十一在西部ヲ夷語ニシユム。クルト云シユムハ西ナリ。クルハ上ニ同

○両緒並ニ大河ニ添フ處ヲ中部ト云聚落十三在都テ五部ナリ

右五部凡ニ本邦ノ商船入込テ賑フ村々ニ運上屋ト云テ本邦商估ノ輩ヨリ會所ヲ建置夷人ヲ指引ニテ交易ヲナ

サシムル之且此交易ノ代其産物少計ヲ松前ノ公室ヘ納メシムル也是ヲサシ荷ト云テ則十年貢ノ心持ナリト云リ

右ノ如ク村々ニ運上屋有テ指引ヲ致スト云凡其運上屋ニ在輩悉ク俗商ナル故夷人ニ接對スルノ間見苦キヲアリト聞及ベリ願フハ此等ノヲ禁シテ礼意徳意ヲ以テ相接シテ夷人ヲシテ心服セシムベキノ俗商ノ上ニモ心得アリ度ナク

東ノ部ニ御味方蝦夷ト云モノアリ是ハ家中同然ニテ年毎ニ松前ヘ年始ノ礼ニ出仕スル也其始終甚謹メリト云リ

其国文字無ク財貨無穀帛無熟銅鐵ナシ只海物ヲ取又鳥獸ヲ狩テ食トシテ生ヲ遂ルマデノヲ也



其国醫藥ナシ。病アルハ只祈禱アリ。然ト云凡何等ノ神ニ  
祈ルコトヲ不知。量ルニ天ニ祈ルナルベシト云リ。○小子按  
ニ絶テ醫藥ナシト云ニモアラズ。イケマ。エブリコ。ノ二藥  
ヲ以テ腹痛。切疵等ヲ療スルコトアリト云。二藥ノコトハ下ノ  
産物ノ所ニ記ス。

其国木綿純帛ナシ。其服ハアツシト云テ。藤蔓ノ如キ物ノ皮  
ヲ剥テ粗ク織テ用ユ。其織面莖ノ如ク其形。腰ト等クシテ  
筒袖也。コレヲ十徳ト云。此物耳。蝦夷ノ産服也。此外ハ獸皮  
ヲ用ユ。又近年。本邦及ビ唐山。滿州。莫斯歌未。亞等ノ古手ヲ  
渡シテ服サシム。然ル故ニ一家ノ内ニテモ父子兄弟其服

ヲ殊ニスル者アリ。親ハ日本ノ服ヲ着テ子ハアツシヲ服  
シ。妻ハ唐山ノ服ニテ娘ハ莫斯歌未。亞人ノ如クナル者ア  
リト云リサモアルベク思ハル實ニ無制ノ夷狄ナリ。  
其国躰ヲ一句ニ言バ百里ニ三百里許ノ一大石山ニ然ル故  
ニ地面悉ク峻岨ニシテ中土ニ樹藝ヲナスベキ耕地ナシ  
此故ニ只海岸ニ添テ僅ニ百七ヶ村アル耳也。松前七十里ノ夷人ノ村ハ此外ナリ  
東北ノ方ニ山住ノ夷人アリ。是ヲ夷語ニメナシト云。海産ニ  
乏キ故ニ菽麥梁稗等ヲ植ルト云。凡寒氣ノ粗田ナル故ニ  
實リ甚微少ニシテ只耕ス者ノ腹ニ充シメテ他ニ施スノ



余粟ナシ。此山夷獸皮及ヒ山物ヲ携テ時々海邊江出テ海  
物ト交易スルヲアリト云ヒ其住所先ニ村落幾許ト云フヲ  
知ラナシ○或説ニツコロハタジリ等ノ西ノ方山ニ入リ  
二日程山住ノ夷人ノ村落アリト云リ

蝦夷国ノ北ニ又一国アリ蝦夷ノ西北界ヨリ僅ニ海上六七

里ヲ隔ツ此地ヲカラフト嶋ト云本名タライカイ聚落ニ

十一在テ廻リ三百里ノ嶋ト云傳レヒ其詳ナルヲ見タ

ル人ナシ然レヒ近頃輿地ノ学精クナリシ故此地ノヲモ

大畧弁ズベキニ似タリ此地全ク離レ嶋ニアラズ東韃韃

ノ地續室韃ノ地方ニテ東南海ノ一出崎ナリト云リ因テ

見テ知ベシ白石先生ハ萬国圖ノ野作ト云ル地ハ此カラ  
フトナルベシト云レタリ扱其西北方江續キタル處ハ皆  
嶮山岩石ニテ通路シガタシ其山ヲ越テ西北ノ方ニサン  
タンマンチウト云地アリサンタン未考マンチウハ滿州  
ナルヘシト云リ憶フニカラフトヨリ滿ノ都マデ甚相遠  
カラザル欵○寛永中越前国ニ国浦藤右衛門等カ漂流ノ記ヲ  
按ニ初メ北高麗ノ邊へ着岸シテソレヨリ陸路三十日ニシテ滿ノ都ニ  
至リ又三十余日ニシテ北京江入又三十余日ニシテ朝鮮ノ都ニ来リ又十  
二日ニシテ釜山浦ニ至テ對馬江飯ルト云リ彼等ガ一日ノ行  
程ハ日本道七八里ナレバ其里數ノ大畧ハ日數ヲ量テ知ル々ナリ



カラフトヨリ蝦夷江交易スル産物ニ青玉、雕羽、煙管、蟒純、文  
繒、綺帛等アリ其中青玉ハカラフトノ産ニ、雕羽ハカラフ  
ト及ビ蝦夷ノ産ニ、煙管ハ韃靼ノ物ト覺ヘテ皆滿字ヲ彫  
也。蟒純、文繒、綺帛ハ唐山ノ物ニ北京ヨリ滿州ニ道シテカ  
ラフトニ至リ、ソウヤヲ經テ松前ニ來ルニ然レモ蝦夷カ  
ラフトノ間海ニハ暗瀬多ク陸ニハ千山峩々トシテ兩道  
ノ通路難義ナル故大交易ハ無シテ僅ニ貨ヲ通スル耳也  
蝦夷ノ東海中ニ千嶋ト稱シテ圖書ニ載ルモノ三十七嶋ア  
リ此中蝦夷ト通スルモノ只二ツ曰クナシリ曰クエドロフ  
也此三十七嶋ヲ過テ東ニ又國アリ加模西葛杜加ト云蝦夷

人コレヲカム是又韃靼ノ地續ニテ蝦夷國ノ北ヲ取卷テ  
サスカト云ク東ヘ延タル遠地ニ日本寛文ノ頃エーロッパ歐羅巴洲莫斯哥未亞ノ  
女帝大豪傑ニシテ五世累ニ一帝タラント志ヲ振イ起シ  
制ヲ定メ令ヲ下シテ曰ク吾ヨリ後子々孫々我が制ヲ不改  
土地ヲ廣クシ功ヲ大ニスルヲ以テ帝業トセヨトナリソ  
レヨリ日々月々ニ人才ヲ挙用テ次第ニ韃靼ノ北邊ヲ畧  
シテ終ニ日本元文ノ頃迄ニ東ノ限リ加模西葛杜加ノ岬  
マテ則カムサ日本道三千余里ヲ莫斯哥未亞ノ領國ト為  
テ彼ノ國ヨリ代官ヲ置テ國事ヲ勤メシムルニ然レモ其  
地穀帛ナシ其貢物ハ人別ニ因テ一人ヨリ一獸皮ヲ取ト



云リ扱此加模西葛杜加ヨリ東ニハ畧スベキ土地ナシ故  
ニ又西ニ顧テ彼ノ千嶋ヲ手ニ入ベキ機アリト覺ユ其故  
ハ千嶋ノ極東ニラツコ嶋一名クルムセト云一大嶋在ル  
ムセハ加模西葛杜加ノ別名也ラツコ嶋加模西葛杜加ニ  
近キ故エゾ人相混シテ此嶋ヲモクルムセト称スルナリ  
此嶋モ彼ガ手ニ入タリト覺ヘテ近頃ハ此嶋ニ莫斯科未  
亞人多ク居住スル由ニ是ヲ基本ニシテ此頃ハ蝦夷ニ近  
キエドロフ江来テ交易ヲスルモトデ此交易物ノ中ニ胡椒沙  
糖猩々緋ノ如キ南海ノ  
産物相雜ルト云其南國ノ産品也然レモ其交易ニ来ル本  
地江来ルユヘハ如何考アリヤ  
心計リ難シ若クハエドロフヲ吞ノ志意ニハ不有歟扱何  
國ヨリ来ルト問ヘバオロシヤト答フト蝦夷人語ルト聞

及ベリ按ニオロシヤハルシヤノ一轉語ナルベシ如何ト  
テ猶日本ノ江戸ト云ガ如シエゾ人何國ヨリト向シ片  
ルシヤト答シヲオロシヤト聞ウケタルト思ハル其  
服ハ阿蘭陀ノ服ニ似テ色ハ悉ク赤キヲ用ユ然ル故ニ蝦  
夷人等是ヲホリシイシヤモト称スル一統ニ赤色ノ服  
女帝ノ制令云○夷語ニ赤キヲホリト云善ヲシイト云人  
ヲシヤモト云ホリシイシヤモト云赤色ノヨキ人ト云意ニ  
テ彼ノ赤色ノ人ニ既ニラツコ嶋ヲ取テエドロフヲ十ツ  
親附タル詞ナリ  
ケシ上ハ又一タビ西ニ顧ミバ蝦夷ノ東北部ニ至ルベシ  
日本ト蝦夷トハ唇齒ノ國也可察  
蝦夷ノ性愚ニシテ善也オロシヤ人ノ蝦夷ニ接スルヲ聞ニ  
曾テ于戈ヲ不用暴逆ヲ不為蝦夷ハ寒地ナル故胡椒ヲ食



ハセテ氷寒ヲ凌ガセ。襜袍ヲ与ヘテ寒氣ヲ防カセ又ハ沙糖ノ甘美ヲ食ハセ或ハ淳酒ノヨキ酒ヲ飲セテ夷人ノ口ヲ悦ハセ又ハ大炮ヲ車轉カシテ威嚴ヲ示シ文武相兼テ夷人ヲシテ己レニ馴懷クベキ術ヲ施スト聞リオロシヤ人ハ大躰ヲ知レリト云ベシトヘイト語レリ

其国ニ第一金山甚多シ然レ凡掘ヲヲ不知空ク埋レテアル也。銀山銅山亦然リ又砂金ノ出ル地多シクンヌイウンベツ。ユウバリシコツハボロ等也。此砂金河水ニ流れ出ル耳ニ非ズ砂金ノアル地ハ十里二十里モ土地一面ニ生スル也。ハボロノ砂金ハ海底ヨリ打上ルト覺ヘテ西北風ノ大

荒シタル後ハ海濱四十里ノ間。一帯金色ヲナスト云リ是等ノ金銀ヲ不取シテ空ク捨置テ可惜ク。竊ニ憶フ今取スンバ後世必。莫斯歌未亜取ベシ。莫斯歌未亜既ニ是ヲ取バ。臍ヲ啣トモ。遲カルベキ歟。○或説ニ砂金ヲ取ンテヲ欲シテハボロニ冬コモリナドスレバ極寒ニ擊レテ必死ス。タトヒ不死凡病身廢人トナル故。行人ナシト云傳フ。小子按ニ其事實ナラバ無術無謀ノ甚キ也。ハボロニテ寒氣ノ為ニ人死スルナラバハボロヨリ北方ノ人ハ何ヲ以テカ活ルヲ得ベキヤ。其寒氣ノ為ニ人死スルト云ハ暖地ノ人強寒ノ地ニ入テ預メ寒氣ヲ防ガサル故也。防グ術アラバ



何ノ死ト云フカアラン可思  
蝦夷国ノ産ニ良材多シ第一檜葉甚多シ○蝦夷松ト云テ檜  
ニ類セル良材多シ當世障子曲物白木臺等ニ作ルハ皆此  
木ノ其外用多シ○五葉松多シ蝦夷松ヨリ劣ルト云凡是又  
良材ノ此外桂、櫨、椴、黄栌等多シ○草ニハ春菊ニ白花ノ物  
アリ、百合ニ黒花ノ物アリ、虎杖ニ太キト廻リ六七寸ニシ  
テ高キト一丈五六尺ナルモノアリ、款冬ニ莖ノ廻リ六七  
寸ニシテ葉ノ大サ方一丈余ナルモノアリ○山獸ニ熊、熊  
アリ、羆ハ人畜ヲ害シ、熊ハ害セズ、又希ニ緋熊アリ、赤キト  
猩々緋ノ如ク、疾ク電光ノ如シ、現ハル、ト希クコレヲ見

者ハ必病、實ニ神獸也○牛馬ハ松前ノ地ニ在テ蝦夷地ニ  
ナシ○水獸ニ獵虎、海狗、海獺、海豹、アリ皆珍トスベシ○鳥  
ニ鷹、雛、雛、アリ然ル故ニ多ク箭羽ヲ出シテ絶品トス  
ル○魚ニハ鮭魚、鯉魚、此国ノ大産物ニシテ夷人ノ常食  
ニ充ルモノ、沿海ノ諸水鹹淡相雜ル處、鮭魚ヲ産スルト  
他邦ニ比類ナシ、歳ノ七八月、鮭魚河ニ洑ル、河水コレガ為ニ塞ッテ  
不流、乃チ徒手ニシテ是ヲ捕ル、ト山ノ如シ、則チ火上ニ熏  
シ乾シテ腊ト為ス、則チ鮭、又鯉魚アリ、此魚ノ聚ル所、噓沫  
雪ノ如シテ水上ニ浮ブ、乃チ網シテコレヲ捕ル、ト又山ノ  
如シ、又乾魚ニ作ル、此魚、子アリ、腹ニ滿、剖取テ脰ト為、  
則チ數ノ子ナリ



此二魚以テ一年ノ食ニ充ベシ蝦夷地五穀不可植天此物ヲ生シテ人ノ食ニ充實ニ  
造化ノ此二魚ノ外海嶺鮑魚多シ是又食ニ充ベシ○鯨魚  
多シト云凡夷人等是ヲ捕ル術ヲ不知只カミキリト云魚  
ニ嚙レテ死セル鯨魚ノ磯ニ寄モノヲ取テ利スル耳○カ  
ミキリ魚ノ形江豚ノ如シ其鬣銳スニシテ長シ蓋シ劍魚ノ  
類欵此魚能鯨魚ヲ斃スト云リ○東海ニオキナト云大魚  
アリ甚長大ニシテ能鯨魚ヲ吞ト云傳レ凡其全軀ヲ見タ  
ル人ナシ只希ニ浮ヒ出ル片背ト鰭トヲ見ノミ也其背ノ  
大ナルヲ嶋山ノ如シト云リ此魚ノ来ル片ハ海底雷ノ如  
ク鳴響音テ鯨魚東西江遊走ル片ハ漁舟モオキナノ来ル

ヲヲ知テ速カニ上陸スルト云リ都テ東海ノ漁舟ハ度々  
出逢トナリ○キナボウト云魚アリ形海鷗魚ノ如シ腹中  
ニ油腸アリ夷人以テ珍味トス○鱈魚アカエ甚大ナル者アリ希  
ニ浮ビ出ル片其背ノ廣キト方六七十丈ノ者アリト云是  
又大奇異也都テ偏氣ノ地故異物モ生スル欵○昆布ノ  
ハ世ニ知所ナレバ不記○藥品ニイケマエブリコアリ此  
ニ藥ハ夷人疾病ノ片服用スルニ此外ニ藥品アレ凡用ル  
トヲ不知クエブリコハ茸也或ハ云深山ノ大檜樹ニ生ズ  
ト未實否ヲ不知疝氣虫積惡心嘔吐ヲ療スルニエブリコ  
ヲ用打身切疵風邪腫物ヲ療スルニハイケマヲ用ト云リ



近來本邦ニモ此二品ヲ遣イ覺ヘテ治療ヲ施ス者アリ能  
病ヲ治スト云イケマハ蔓草ノ仙臺ノ駒ケ嶽○此二藥ノ  
外ニ附子、黃精、黃連、人參、黃栢等アレト取用ルヲ知サル  
十リ附子ハ毒箭ニ用ル其法ハ附子、蕃椒、足高、知ノ  
三味ヲ搗テ泥トナシ、火ニ煉テ用テ下聞及ベリ  
右産物ノ大畧ヲ記ス、只可惜ハ金銀山ヲ不掘ト土地一  
面ニ生スル砂金ヲ取ガルノ二ツ也、何レノ時カ術者出  
テ蝦夷地ノ金銀ヲ得テ有シ

寛文壬子ノ年十二月二十三日、伊勢國ノ米船一隻、帆ヲ志摩  
國鳥羽ニ開イテ東行ス、同二十四日申ノ刻、北風大ニ起テ  
東南方ニ漂流スルヲ九昼夜、風又南ニ轉シテ却テ東北方

ニ漂流スルヲ七ヶ月、其幾千里ナルヲ不知、至ル處、海氣  
昏黒ニシテ日月ヲ不見、百餘日、風止ムノ故ニ針路ヲ南  
ニ求テ漸々ニ舟ヲ進ルヲ数日ニシテ忽チ一大國ヲ見、其  
國ヲエドロフト云、海岸ニ傍テ西南ニ行、八昼夜ニシテ  
其國ノ地境盡、此處ヨリ西南十二三里ニ山ヲ見ル、渡レバ  
又一國アリ、其國ヲクナジリト云、又海岸ニ傍テ西南ニ行  
、九昼夜ニシテ地境盡タリ、又西方二十余里ニ山ヲ見ル  
、渡レバ乃チ蝦夷ノノツサブム、ツレヨリ同國トガチヲ經  
テ松前ニ至ルト云、記録アリ、小子按ニ其始メ至シ、海氣昏  
黒ノ處ハ加模西葛杜加、東ヲ過テ夜國ノ境ニ漂イ居タル十



ルベシ。扱エドロフクナシリ。凡ニ海岸ニ傍テ行リ。八昼夜  
九昼夜ト記ス。片ハ古来ヨリ凶スル如ク。彈丸墨子様ノ一  
小嶋ニテハ無ク。皆臺灣。琉球ニ等キ大サノ国ト思ハル。世  
ニ有所ノ凶ハ只蝦夷人ノ言ニ因テ其国名ヲ現ハス耳ト  
知ル、也

加藤清正。朝鮮ヲ陷レテ。几良哈<sup>オシカ</sup>ヘ乱入シ。其都城ヲ焼拂テ後。  
高山ニ登テ東ヲ眺望スレバ。日本ノ富士山ヨク見ユルト  
テ。清正モ軍士モ大ニ不思儀ヲナシタルヲアリ。具原篤信  
コレヲ評シテ曰。其山ハ富士ニハ非ズ。薩摩ノ関門ナルベ  
シト云リ。又或説ニ。伯耆ノ大山ナルベシト也。小子按ニ。皆

非也。其山ハ蝦夷国ノ西海中ニ在リ。イシリナルベシ。三国  
接壤ノ小凶ヲ見テ。方位ヲ知ベシ。

船乗ノ詞ニ。根ノアル雲ヲ。ワウレウト云テ山アル方ヲ知ク。  
蝦夷国ノ西方ハ漫々タル大海ニシテ。更ニ国ナシ然レ。凡  
蝦夷人ハボロウエベツ。等ヨリ西南ニ當テ希ニ。ワウレウ  
ヲ見テアリ。是ハ朝鮮山ナリト云傳フト語レリ。此言中レ  
リト思ハル。是又小凶ヲ見テ知ベシ。

坪ノ碑ニ。五方ノ行程ヲ記シテ。去蝦夷国界一百二十里ト刻  
メリ。坪ノ碑ハ古ノ多賀城ノ門碑也。今ノ仙臺。此時代ハ小  
宮城郡市川村ハ其城趾也。古碑猶存在ス。一町ハ六  
道ニテ。今ノ六町ヲ以テ一里トシタルヲナレバ。十間。一  
間。



八六此碑ニ記シタル一百二十里ハ乃今ノ道法ニテ只  
二十里ナリ然レバ即今ノ桃生郡ノ邊ニテ今仙臺封域  
ノ真中也。是古ノ蝦夷国界也。扱今ノ蝦夷国界ト云ハ松前  
ノ熊石クニセキニテ多賀城趾ヨリ小道一千三百二十里。今道二百  
二十里也。此如ク古ト今ト蝦夷国界ニ遠近ノ差アルハ  
天平宝字ノ頃迄奥羽ノ西州ハ王化ニ服セザリシ国ニ然  
ル故ニ京家ニテハ奥羽ノ人ヲバ真ノ蝦夷ト心得テ外国  
人ニ等キアツカイナリキ此故ニ東征ノ役止ナカリシニ  
天平宝字ノ頃惠美朝謁等漸々桃生郡ノ邊ニテ切從ヘテ鎮府  
ヲ宮城郡ニ造営シテ蝦夷ノ押トセラレタリ其比石碑ヲ

城門ノ前ニ建テ去蝦夷国界一百二十里ト記シテ今ノ桃  
生郡ノ邊ヨリ南ヲ日本ノ地トシ北ヲ夷地ト定メラレタ  
リ。是古ノ蝦夷国界也。其ヨリ四十余年ノ後桓武帝ノ延曆  
中ニ征東將軍坂上大宿禰田村麿大ニ征伐シテ終ニ多賀  
城ヨリ小道八百四十里。今道一百四十里北方南部大間津  
輕外ガ濱迄服從セシメテ海ヨリ南ヲ日本ノ地トシ北ヲ夷地ト  
定メラレタリ。是中ゴロノ蝦夷国界也。又其後六百七十余  
年ヲ經テ後花園帝ノ嘉吉三年武田太郎源信廣海ヲ越テ  
蝦夷国ヘ乱入シ終ニ地ヲ得テ小道四百二十里。今道七十  
里。是即今ノ松前也。此松前ノ北ノ限リヲ熊石クニセキト云多賀



城趾ヨリ熊石マデ小道一千三百二十里。今道二百二十里也。是今ノ蝦夷国界ニシテ日本風土ノ限リトスル也。是ヲ考レバ天平宝字ノ頃ヨリ蝦夷国此如ク奥ノ地次第ニ開界ノ廣クナリシヲ九陪余ナリケシ故ニ古ト今ト蝦夷国界ノ遠近大ニ差アル也。今人其義ヲ不知。此故ニ今坪碑ヲ讀者其文ニ因テ蝦夷国界大ニ近シト言テ惑ヲ取人多シ。仍テ筆シテ以テ今ノ蝦夷国界ハ古ノ蝦夷国界ニ非ルヲ弁ズ。  
右ノ如ク熊石ヲ以テ日本風土ノ限リト見ルハ蝦夷ヲ外国ト立シヲナル故。柔和正直ノ見識凡云ベキ歟。亦竊ニ憶ヘハ強テ蝦夷ノ極北ソウヤシラヌシ。等ヲ以テ日本風土ノ限

トスベシ。是蝦夷国ヲ以テ日本ノ分内ニシタル見識ニ其故如何トナレバ往昔ハ真ノ蝦夷ハ言ニ不及奥羽ノ地モ王化ニ不服シテ常ニ朝家ヲ蔑ニ仕奉タルヲサヘ两三将ノ武徳ヲ以テ平服セシメテ今ハ却テ蝦夷地七十里ヲ上国荒服ノ国トナシタリ。即松前七十里ノ地ナリ然シヨリ以来夷人等上国ヲ推貴テ今世ニテハ夷人奉テ上国人タラシヲ欲スル情多シト云リ。此時ニ當テ小シ術ヲ施サバ其俗忽チ变化シテ速ニ上国ノ人物トナルヘキヲ掌ヲ反スヨリ易カルヘシ都テ此條ニ意味アル物語アレ。氏忌諱ヲ顧テ不記。  
日本紀ニ蝦夷ノヲ記セルヲ数多アリ。就中齊明紀ニ政所ヲ後方羊蹄ニ置ルヲアリ。小子按ニ此後方羊蹄ハ真ノシリベニナル歟。



紀年或人ノ  
 說ニ紀年アリ建子ノ月ヲ以テ正月ト定メ建亥ノ月ヲ以テ十二月トナスト云リ且十二ヶ月ノ名ノ方言有テ本邦ノ詞ト殊ナリト聞及ブト語レリ小子按ニ是歐羅巴ノ曆法ニ蝦夷人此曆法ヲ用ルヲ怪ムベシ恐ルバシ

不審<sup>イフカシ</sup>蝦夷人<sup>シ</sup>シリベシハ松前ヨリ七十余里奥也。齊明ノ朝此地ニ政所ヲ置程ニ蝦夷ヲ手ニ入レシナラバ今世ハフウヤカラフト迄モ悉ク日本ノ人物ナルヘキハツク然ルニ西ハ熊石東ハ汐首ヲ過レバ悉ク夷躰異言也。愈不審<sup>イフカシ</sup>其前後ノ文勢ヲ考見ベシ竊ニ憶津輕山ヲシリベシト心得タルニ非スヤ。多罪。又按ニ齊明ノ朝ヨリ一百余年ノ後天平宝字ノ頃宮城郡多賀城ニ碑ヲ建テ去蝦夷國界一百二十里ト刻メリ又愈不審以テ後識ヲ待也。蝦夷國界古今遠近ノ差アルヲハ上ノ坪碑ノ條ニ詳ニ弁ズ蝦夷モ同類ノ人也然レ凡其國文華開ケズ今ノ世迄モ開闢ノ時ノ如ニテ宝貨穀帛文字礼服紀年等無クシテ只食ヲ求ルヲト男女交合ノ業ヲ知レル耳ニシテ實ニ蠢爾タル

ハ彼ノ國智者出テ教ルヲナキ故也。扱各國ノ其初メヲ思ヘバ日本モ唐山モ朝鮮モ阿蘭陀モ今コソ文物國トハ成タレ凡開闢ノ當坐ハ皆今ノ蝦夷ノ如ニアリシヲ大智ノ人交出テ數千年ノ間油断ナク教化アリシニ因テ各文物國トハ成シク蝦夷モ大智ノ人出テ教化セバ漸々ニ開闢疑ナシ然レ凡其國飽マデ氣運否塞ノ下國ナル故ニヤ開闢以來智者出タルヲ不聞猶此末世トテモ聖智ノ人ノ出ルヲモアルマジケレバ濟度ノ為ニ隣國ヨリ教化シテ人道ヲ知シメ物産ヲ開テ生育ナサシムベキト是神佛儒ノ旨ナルベシ殊ニ蝦夷ハ畏モ近ク其上日本ヲ尊信スル



国俗ナレバ小ク教諭セバ其俗忽ク化服スベシ是其国  
立入。商估。舟人ノ輩タリ凡心得アルベキヲ欵  
安永ノ初年ニ小子松前ノ人ト旅宿ヲ共ニス  
蝦夷地ノヲ問シニ彼人数條ノ物語ノ上。蝦夷人ハ悉ク  
日本ヲ慕テ本邦ノ風俗ヲランヲ欲スル者多シト。又其  
地ニ金銀山及ビ砂金ノ夥ク出ルヲ語リ又オロシヤト  
ヤラン云ル国ヨリアヤシキ人來ルヲアリト聞及ブト語  
レリ其後安永ノ末年小子肥前ノ鎮臺館ニ遊事シテ崎陽  
ニ至リ和蘭人ア、レントウレヘイトニ逢フヘイト語  
テ曰蝦夷ハ日本ト一條ノ海水ヲ隔タレバ其地勢別国ニ

似タレ凡倭ヲ日本ヨリ小ク招諭セバ上国ノ風ヲ望テ其  
俗忽ク变化スヘシ其俗变化セバ其国悉ク日本ノ分内ト  
ナルベシ和蘭ハ云ニ不及。欧羅巴諸州ノ風ニテ遠ク萬里  
ヲ隔タル国ヲサヘ能招諭シテ皈服セシメ己レガ分国ト  
ナシテ永ク本国ノ助トス。然ル故ニ近頃。欧羅巴ノ莫斯科  
未亞遠ク北海ヲ越テ蝦夷ヲ招諭スルノ志アリト語レリ  
此二子ノ言ニ因テ熟思ヘバ蝦夷ヲ早ク招諭スベシ。早  
クセズンバ後世必莫斯科未亞ノ賊至ベシ其時臍ヲ啗凡  
遲カラシク竊ニ憶バ。風ヲ移シ俗ヲ易テ一州ヲ經邦シ其  
金銀ヲ取テ上国ノ宝貨ヲ増其九百里ノ地ヲ招テ上国ノ



郡ト為ノ術有ニ似タリ。然ト云凡尋常ノ商估舟人ノ輩ニ  
不可説術アル商估舟人等ニ會テ口自ラ語ルベシ。只心憎  
キハ莫斯歌未亞ノ茲賊等先達テ蝦夷地ニ入テ上国ノ商  
估舟人等ヲ拒ムフアラシク。若拒ムフアラバ速ニ其赤賊  
ヲ鑿ニシ。災ノ根本ヲ除テ後快ク教諭セバ前文ノ如ク其  
俗忽チ上国ノ風ニ移テ遠クカラフト。迨モ松前ニ等キ風  
俗トナレシ然ル片ハ金銀ヲ得テ宝貨ヲ増而已ナラズ其九  
百里ノ地悉ク上国ノ郡ト成テ日出度ヲ此上モナキヲ十  
ルベシ是又商估舟人等ノ大義ナル哉。  
和蘭人ヘイト語テ曰北地ヨリ南国ヲ取フハ仕易ク南地ヨ

リ北国ヲ取フハ仕難シ其故如何トナレバ北地ヨリ南地  
ニ入フ五七日ナレバ風土モ暖カニ産物モ多シ。又入フ十  
日二十日ナレバ愈暖カニ愈多シ。此故ニ進ムニ精神増テ  
地ヲ得テ益アリ是北ヨリ南ヲ侵シ易キ所ナリ。亦南ヨリ  
北地ニ入フ五七日ナレバ風土寒ク産物モ不多。又入フ十  
日二十日ナレバ愈寒ク愈無シ此故ニ進ムニ精神薄ク地ヲ得テ  
モ益ナシ是南ヨリ北ヲ不<sub>レ</sub>欲<sub>セ</sub>所ナリ。如此趣意ナル故和蘭  
ハ呱哇ヲ取<sub>ル</sub>韃靼ハ唐山ヲ取<sub>ル</sub>莫斯歌未亞ハ韃靼ヲ取<sub>ル</sub>是皆  
北ヨリ南ヲ取<sub>ル</sub>也ト云リ。小子憶<sub>ル</sub>此言前人未<sub>レ</sub>筭ノ説ニシ  
テ人情如斯有<sub>レ</sub>ベキトニ思ハル。是ニ因テ考レバ莫斯歌未



亞ノ蝦夷ニ至レル志意甚憎ムヘシ。然レ凡其蝦夷ニ至レ  
ルヲ未久。今猶兩葉ト云ヘシ

其国鴻荒ノ世ノ一ハ不可知。中古以来。日本紀及ビ異国ノ書  
ニ蝦夷ノ一ヲ言シモノ数多ナレ凡其說紛々トシテ據ト  
シガタキヲ多シ其後嘉吉年中。松前ノ地。荒服ト成シ以来  
其封域始テ定ルト云凡夷地ノ一ニ於テハ猶不可知モノ  
多シ又其後源君美子能考索シテ蝦夷志ヲ作テ始テ其一  
州ノ大畧ヲ可見。然レ凡此時代蝦夷国ノ事跡未精密ナラ  
サル歟。今ヲ以テコレヲ見レバ猶遺漏アルニ似タリ其後  
北海隨筆。蝦夷隨筆等アレ凡亦復闕遺多シ。然ト云凡蝦

夷国ノ大畧ヲ可見モノ。此三書ヲ外ニシテ更ニ書ナシ此故ニ今小子  
ガ述ル所モ此三書ニ本ツイテ且コレニ加ルニヘイトガ言ヲ以テシ  
亦其国渡海ノ舟人ノ說ヲ撰采テ彼是相照シテ淨寫スル故。  
新說既ニ多シ其旧說ハ三書ニ多ク載ル故。茲ニ不書

朝鮮。琉球ノ人物ハ世々本朝ニ來聘シテ諸人ノ見所ナレバ其図ヲ  
不載。蝦夷人ニ至テハ奥羽ノ人ト云凡見ヲナシ況ヤ其余ヲヤ仍  
テ其人物及ビ衣服器物等ノ大畧ヲ図スル耳

其国ノ方言。聞傳シテ数多アレ凡文長ケレバ不記。只其一ヨリ

十道ノ数ノ名ノ方言ヲ左ニ挙ル耳

一 シマツラ 二 トツガ 三 レツガ 四 イマツガ 五 アツキ 六 イワ 七 アルワ 八 トベシ 九 シマシ 十 トオ



蝦夷国ニ。王ト云者モナク大名ト云者モナシ。只一村切ニ聚落ヲナ  
 シテ其中ニテ家筋正ク人望アル老年ノ者其部長ト成テ事  
 ヲ計ルト云リ。然ルモハ誰蝦夷国ノ主ト云フモナシ其上夷人ノ性  
 至愚至善ニシテ且其国人奉テ上国ノ風ヲ望ム。孩兒ノ父母  
 ヲ慕フガ如シト聞及ベリ。コレニ因テ思ハ其国ニ立入。商估舟人  
 ノ輩タリ。夷人ヲ諭シテ上国ノ風ニ移シ。俗ヲ易シメバ。公ニ  
 言ハズ忠義ニモ准ズベキ歟。私ニ於テハ愚人ヲ濟渡スルノ類ナレ  
 バ其人ニ取テハ善根ト云ヘキ歟。都テ此国ノ物語。聞及ビシトモ  
 此書ニ記シタキ。丁数多アレ。凡忌諱ヲ顧テ不筆大尾  
 右蝦夷畧説

甲<sup>ヨロイ</sup>ヲヨケベト云。革三重トチ。長二尺二寸。上ニテ幅二  
 尺四寸。下ニテ六尺

齧ヲコンチト云

又又カラカ

ウシト云

小手ハイタヤノ

木ヲ筋金ノ

如ニシテ。木綿ニ

トチ付テ作ル。臍當亦同





此圖ハ蝦夷ノ部長  
オトナ  
ナドニテ上品ノ姿也

男ノ惣称ヲ  
ツカイト云。女ノ  
惣称ヲメノコシト云  
夫ヲホクト云。妻ヲマキト云



此圖ハ蝦夷人。唐山ノ服ヲ着テ。莫斯科未  
ヤ  
亜ノ被リ物ヲ被リ。日本ノ太刀ヲ帯ル躰也

此女夷ハ上品ノ姿也  
女ハ皆面ニ草花。或ハ破格子ナドヲ黥ニスル。唇ヲバ  
薄ク黥シテ青色ニ  
スルナリ



此衣服ノ織物  
モ自国ノ物ニアラズ。  
皆日本。唐山等ノ織物也  
帯ハヒツコキニテ前ニテ結ブ。下品ハ藤繩等ヲ用



中品ノ女夷大概  
此等ノ姿也

蝦夷ハ男女凡ニ眉毛一文字ニ生  
ツバク也其外惣身毛多シ

上下トナク男  
女皆徒足ニテ  
霜雪岩石ヲ踏  
テ少モ痛ムナシ男夷  
山ニ入テ獸ヲ獵モ皆徒足也



中品ノ男夷大概  
此等ノ姿也

是蝦夷人日本  
ノ古著ヲ服シ  
麻ノ皮ヲ腹巻  
ニシタル身





下品ノ夷人。獸皮ヲ

着タル姿也。被リタ

ル物ハ本邦ノ

雪帽子ヲモ

用ヒ又自国

ニテモ制スルニ

中下品ノ者凡ノ帯ル。脇差ヲメシロ

或ハキリト云。皆本邦ヨリ渡ス。出又包丁ノ類ニテ悉酒田打也



中下品ノ者凡ノ帯ル。脇差ヲメシロ  
ヲ以テ卷。其身ハ甚ナマグサシ

下品ノ女夷。大概此等ノ  
姿也

此衣服ノ地ヲアツ

シト云。此物バカリ

自国ニテ制スルニ

藤ノ如キ蔓草ノ皮ヲ以テ

織ト云リ精粗品々アリ





蝦夷ノ男兒ヲ  
射習フ鮓



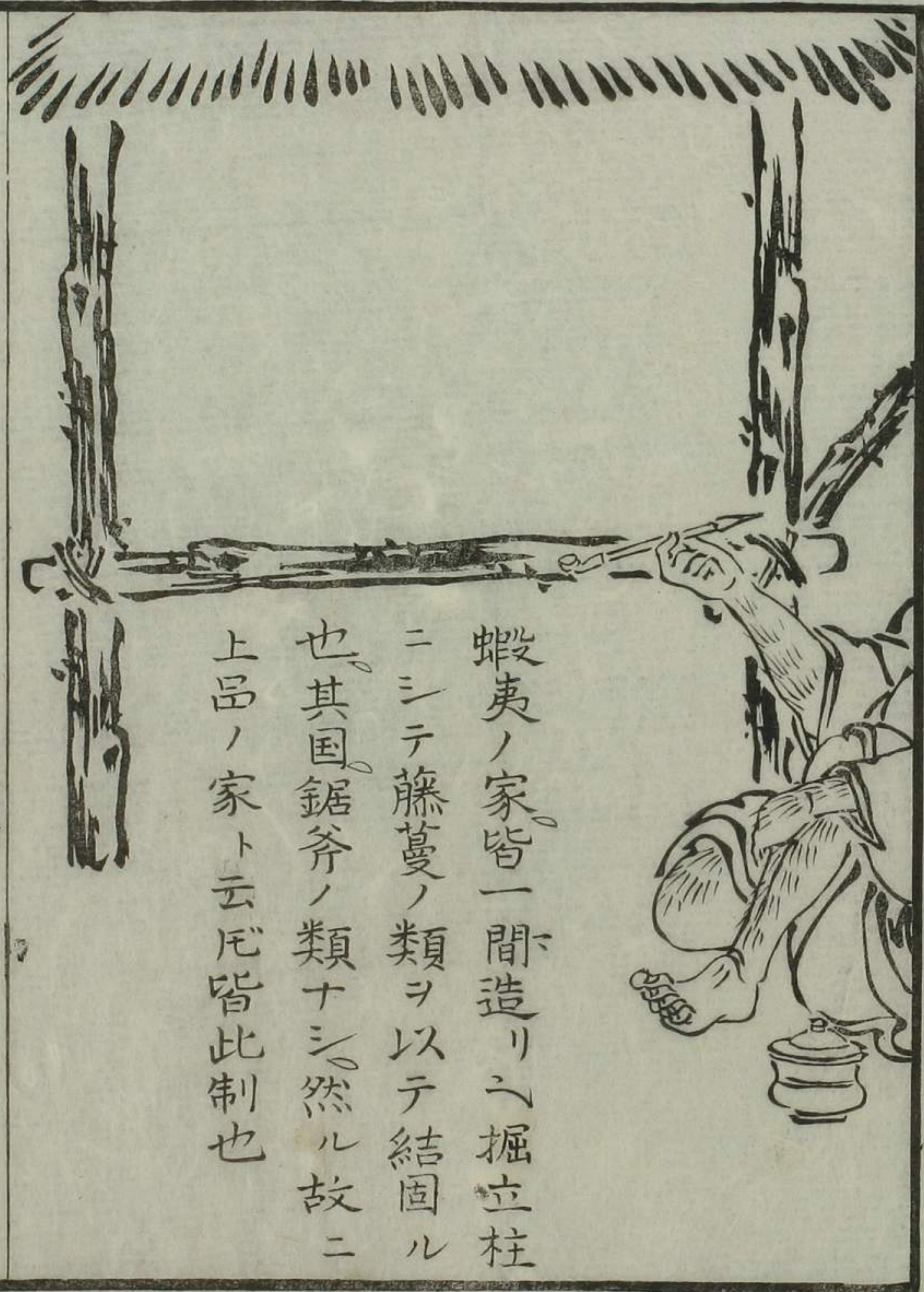
木ノ枝ヲ輪ニ  
シテ是ヲコロ  
バシテ射ル走リ  
物ノ目付ヲ習フナリ

下品女夷鮭魚ヲ負テ運送スル鮓



的





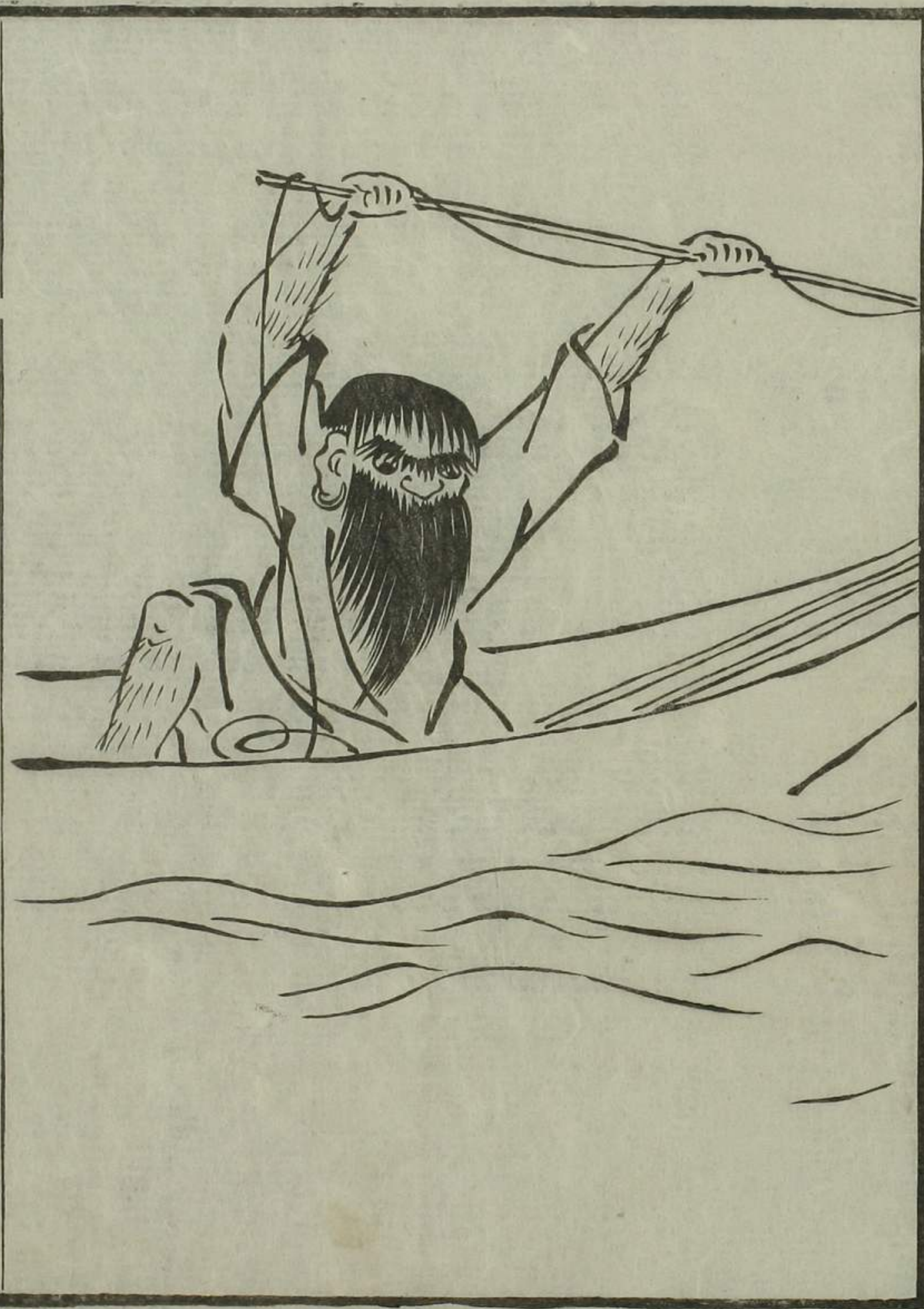
蝦夷ノ家皆一間造リ之掘立柱  
ニシテ藤蔓ノ類ヲ以テ結固ル  
也其国鋸斧ノ類ナシ然ル故ニ  
上品ノ家ト云凡皆此制也



鷲嶋シラネノ類ヲ養テ箭  
羽ヲ取也

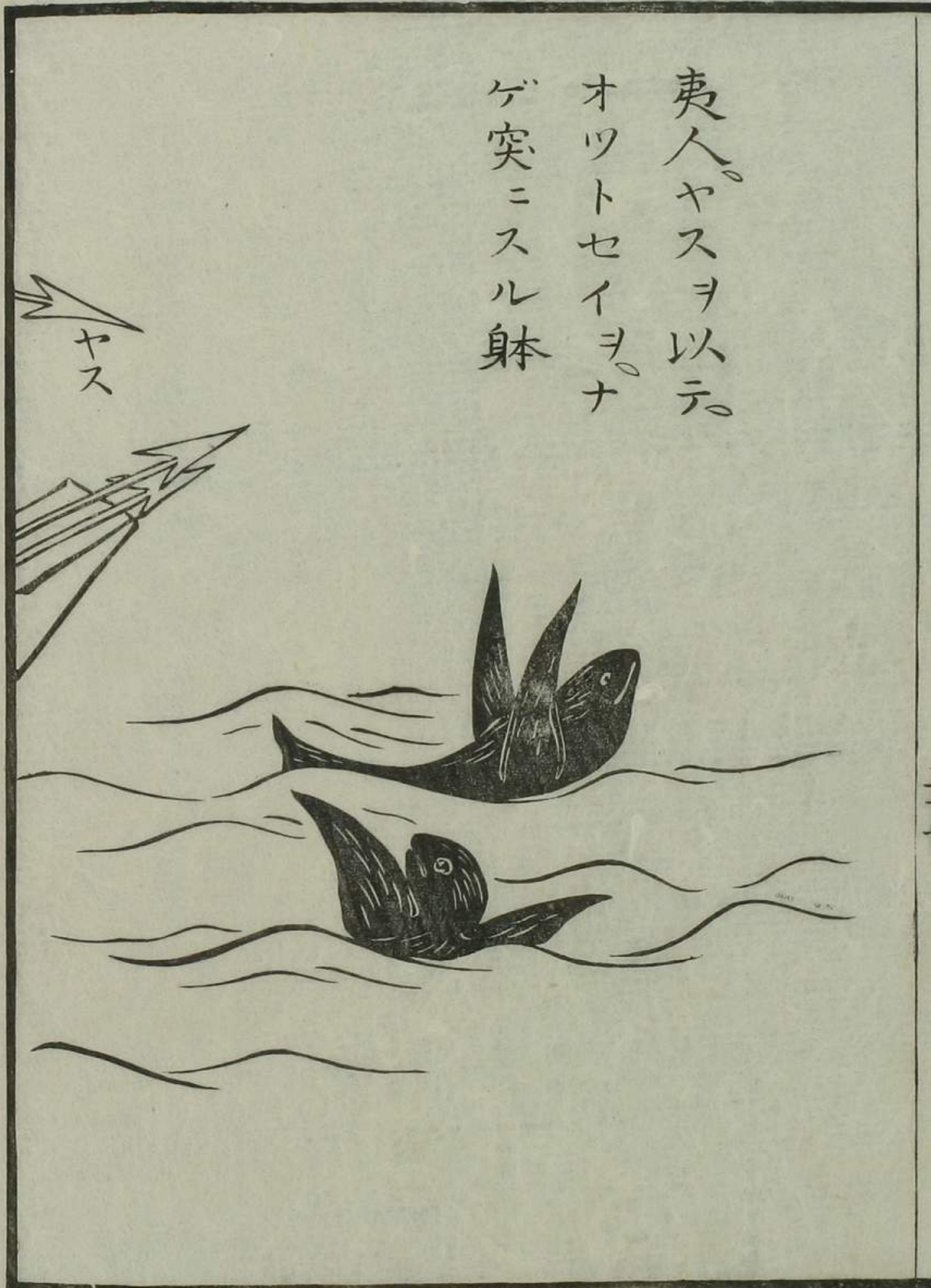
下品女夷間熊ノ子ニ乳ヲ飲スル者アリ





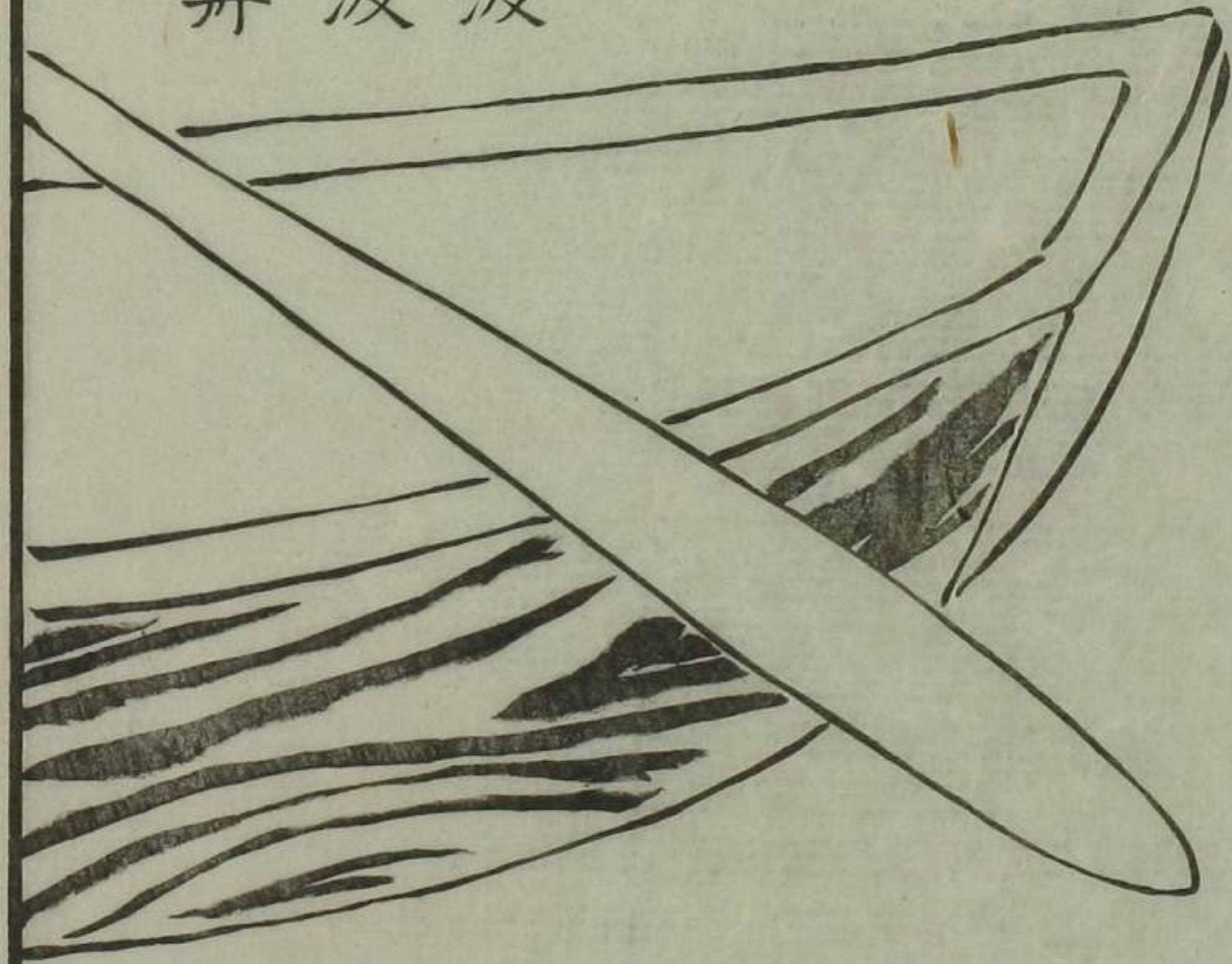
夷人ヤスヲ以テ  
オツトセイヲナ  
ゲ突ニスル鮓

ヤス

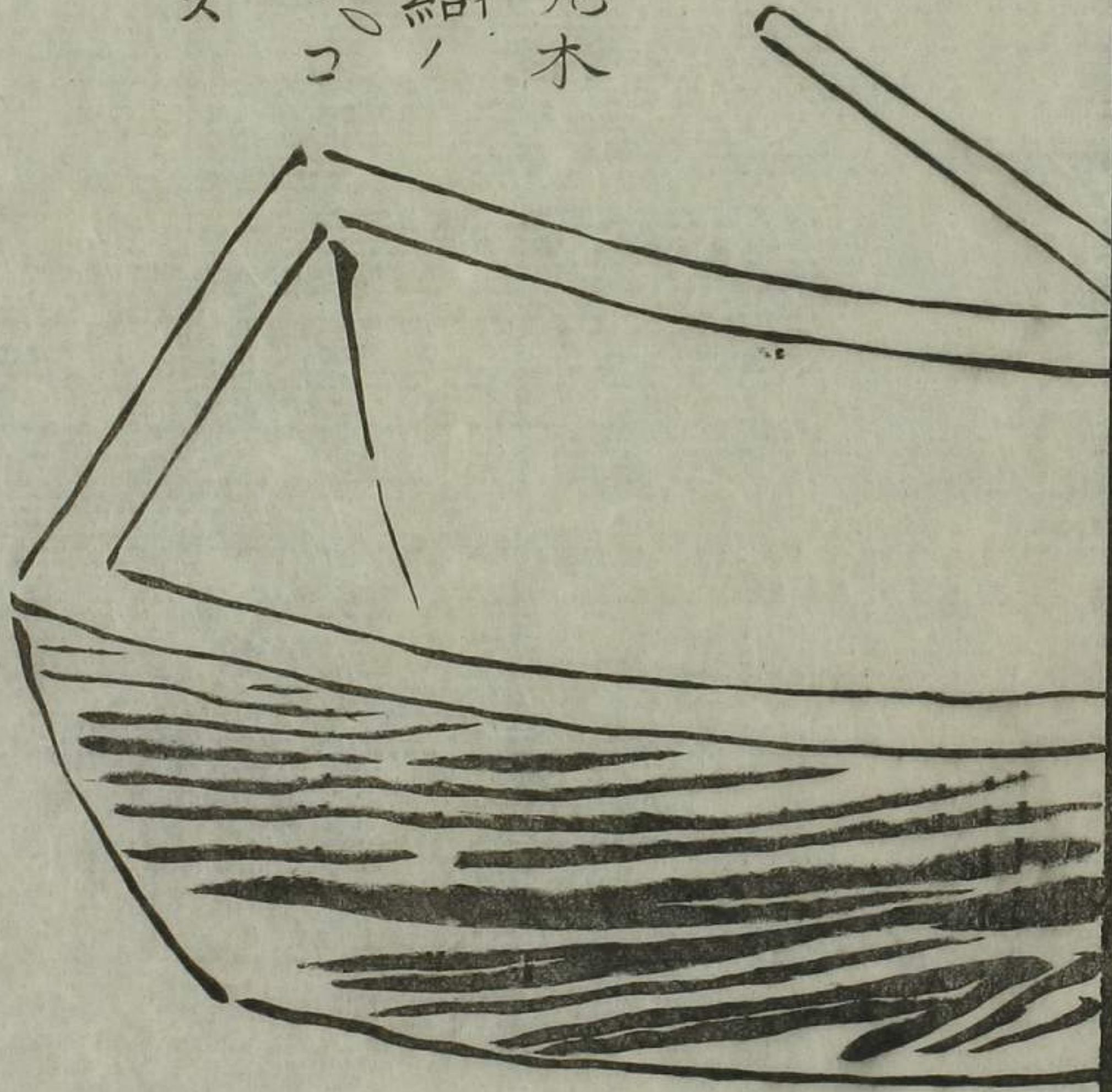




蝦夷ノ舟多ク  
 丸木舟ニ大木  
 ヲ鑄テ制ス。又  
 板ヲ繩結ニシテ  
 造ルアリ二人  
 乗ニモ。三人乗  
 ニモ。一人阿伽汲  
 ノ役有テ不断汲  
 ガレバ水入テ舟  
 沈ムト云リ

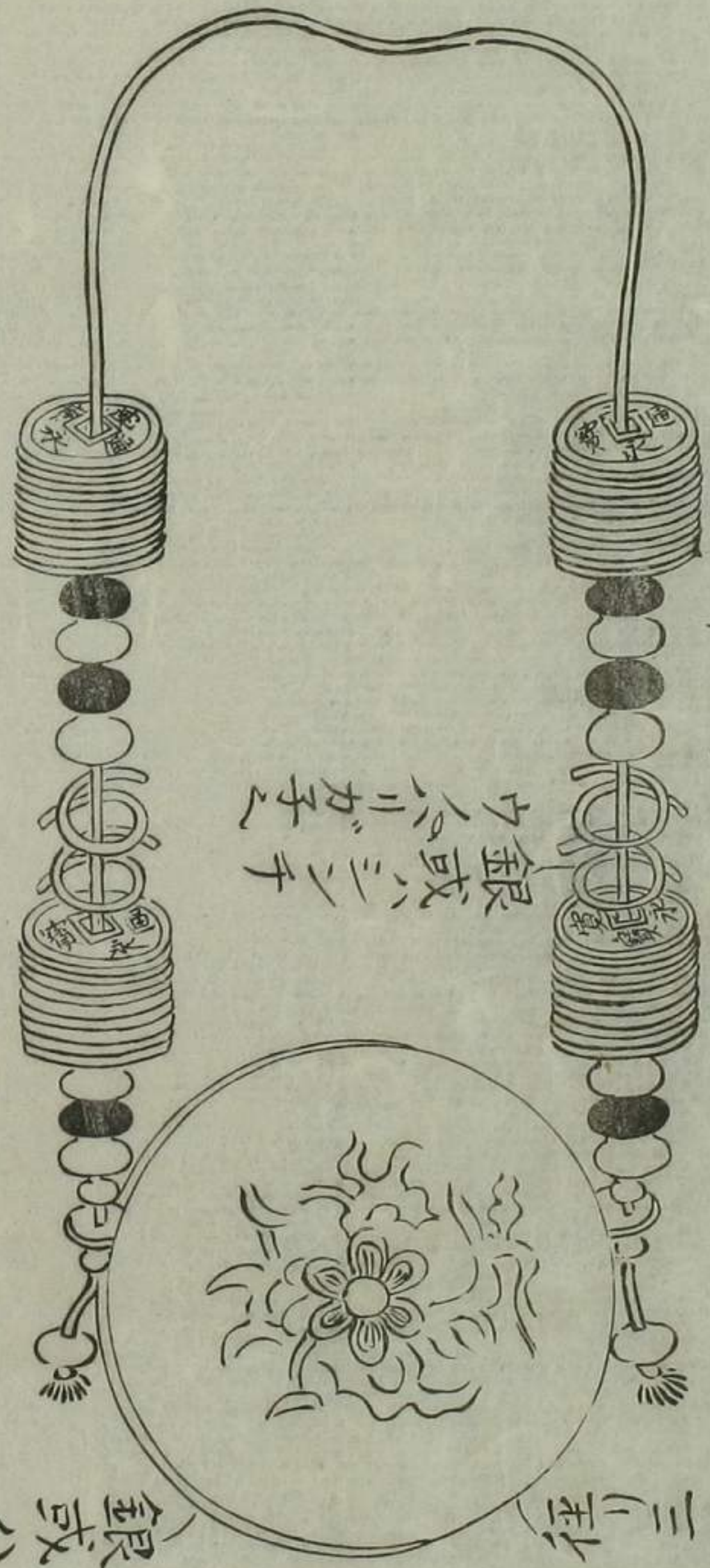


此図ハ丸木  
 舟ニ繩結ノ  
 舟ノ図ハコ  
 レヲ畧ス





シトキノ図



五色ノ吹玉

銀成ニシナ  
ウハニカトナ

径三寸七

銀成ハ白流

女夷ノ首ニ掛ル物ノ守袋ノ類ト云リ

アツシ 都テ衣服ヲアツシ亦ハジツトクト称ス

此服ハ男夷暗

ノ片服ス皆日

本ノ古着ニシ

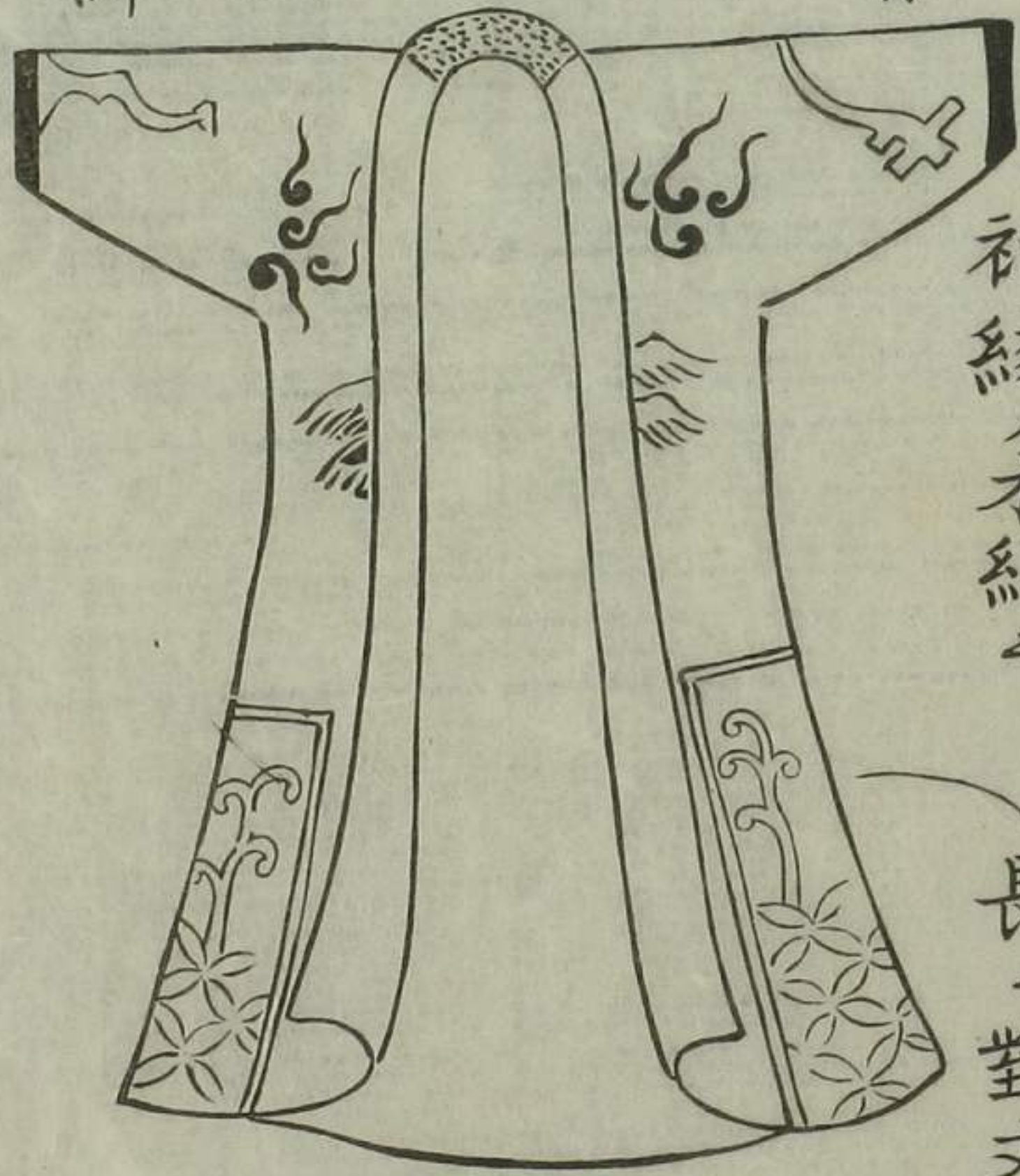
テ純子<sup>ドシスシユチナ</sup>縹珍ナ

ドノ單物ニ摸

様ハ紺ノ木綿

ヲ様々ニ切テ

縫付ルニ女夷ノ服ハ模様禁制也



袖縁ハ木綿

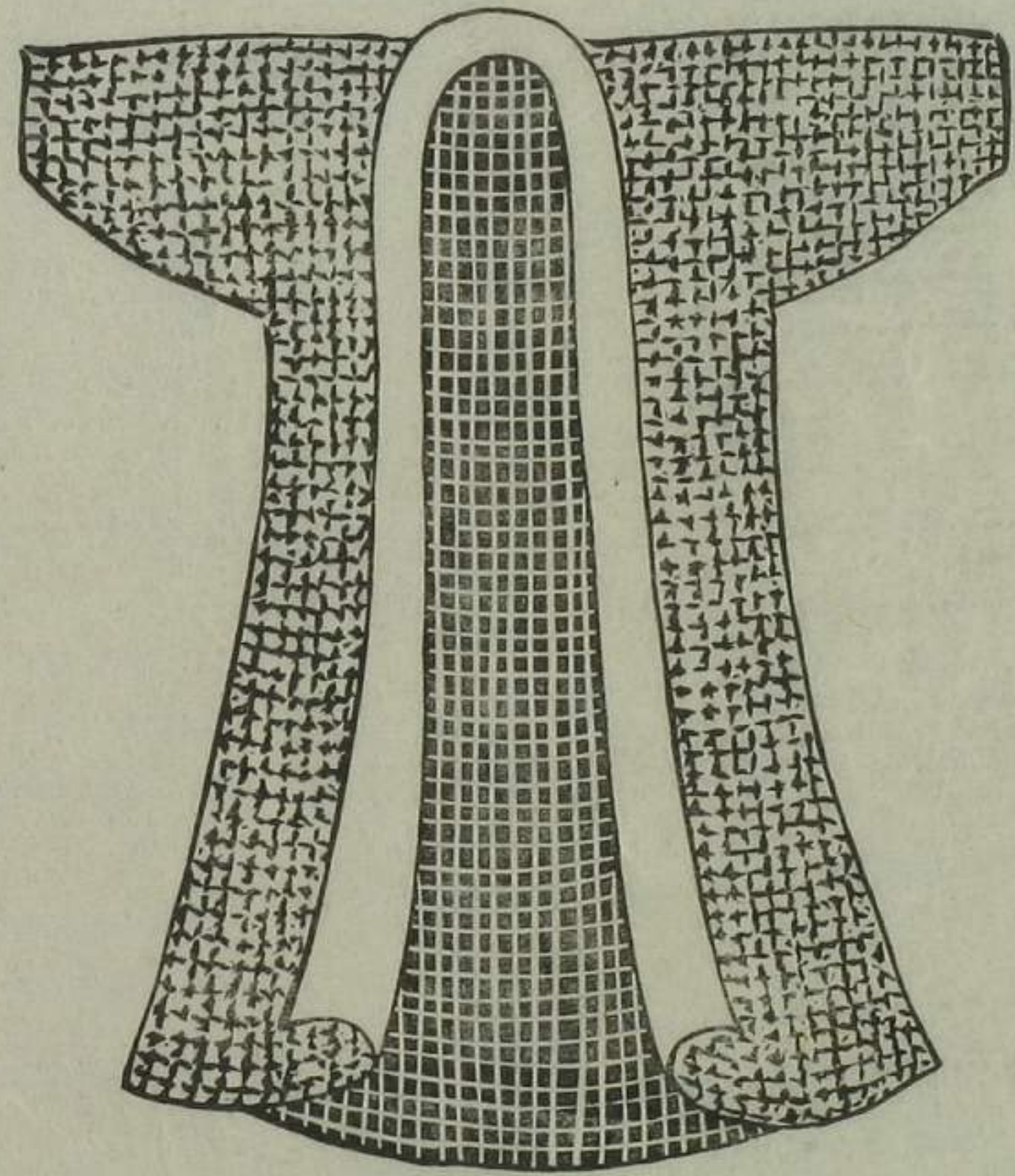
長ハ對丈ニスル

左マヘニ  
合スル



アツシ

此織物バカ  
リ自国ニテ  
制スル也



男夷ノ  
衣服之



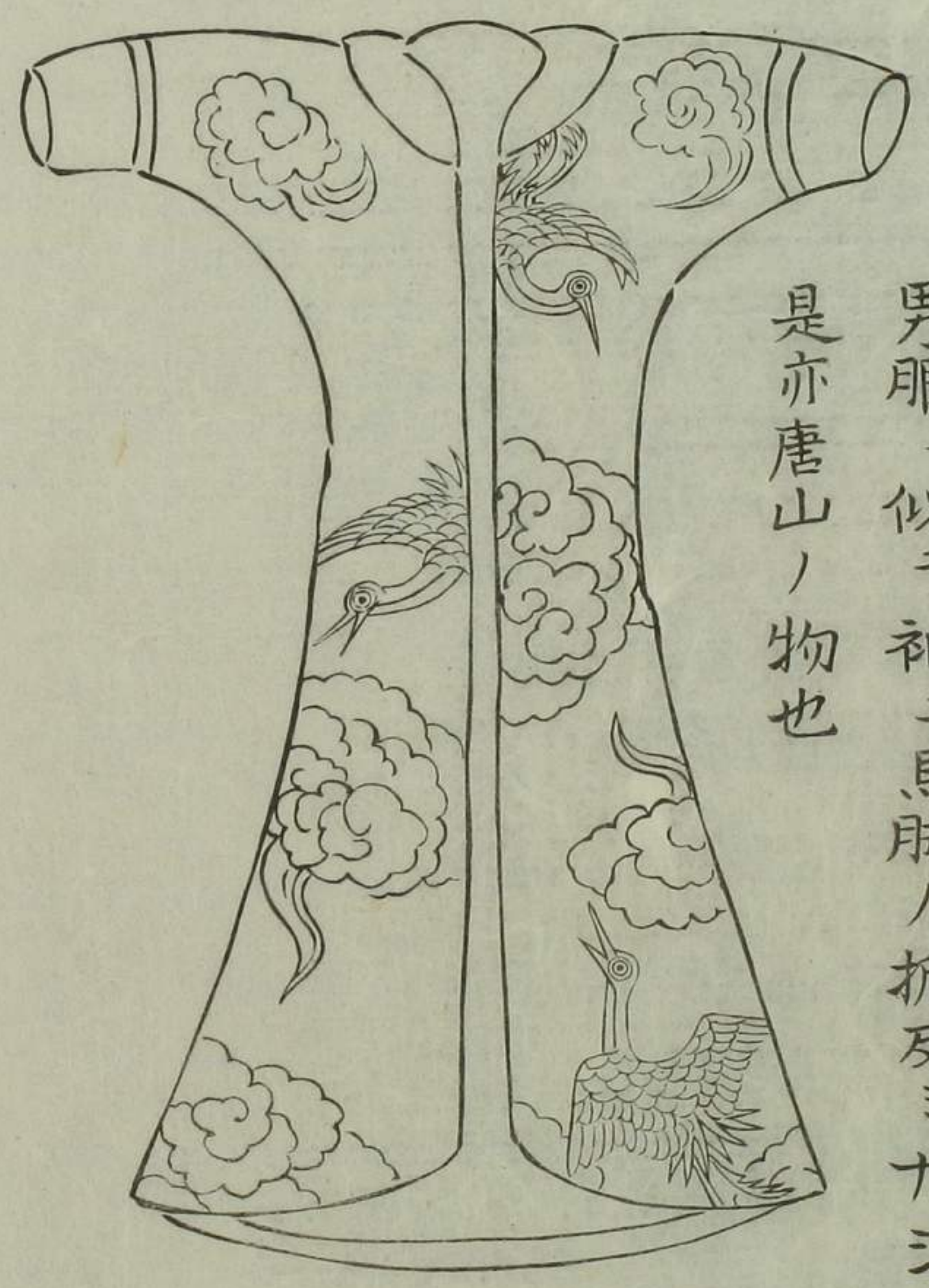
是即唐山ノ物ニシテ、滿州カラフトヲ經  
テ蝦夷ニ來ル也。世ニ蝦夷錦ト云モノ即是也

袖ロヲ四五寸折返シテ着ル。是ヲ馬脚ト云  
是即韃靼ノ風ニシテ今ノ唐山モ皆此制之

ニアキヤ

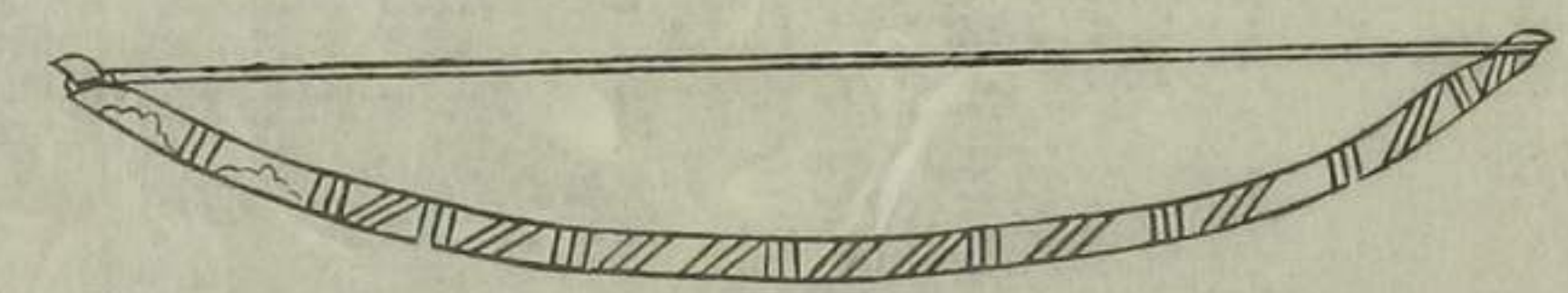


女夷ノ  
衣服



男服ニ似テ袖ニ馬脚ノ折反シナシ  
是亦唐山ノ物也

真ノ根ニハ毒ヲ  
塗故竹ヲ添テ糸  
ニテ卷置也  
矢ノ根ハ鹿ノ  
足骨ヲ用ユ

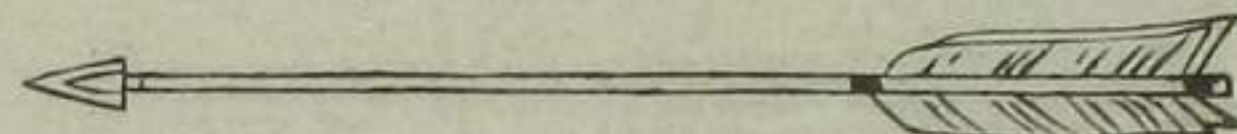
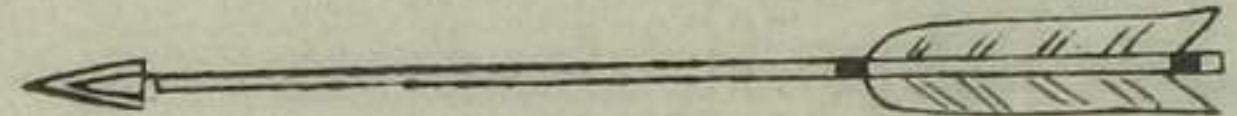


弓夷語ニハグト云  
オツコノ木ニテ作ル也  
ニ伽羅木ト云モノニ廻  
リニ寸六七分長サ三尺  
七八寸皆革ニテ卷之弦  
ハアイト云草ノ皮ヲ以  
テ三ダリニヨルニ



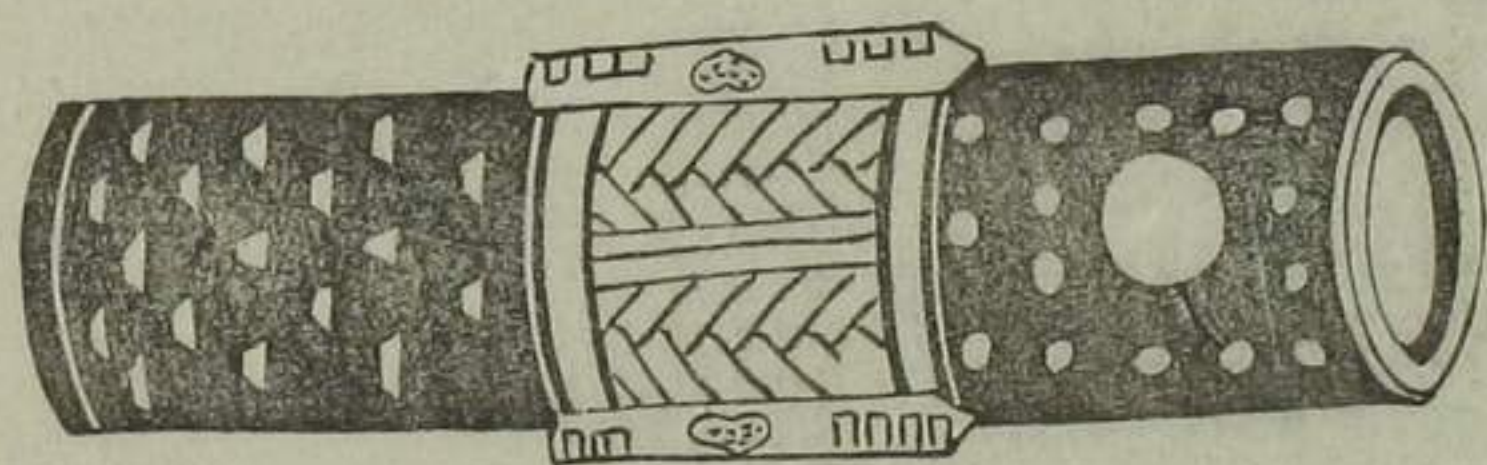
矢

箭羽



長サ一尺二三寸  
太サ一寸廻リ皆  
四ツ羽也  
根ノ長サ二寸余

矢筒 夷語イカイフ



長サ一尺七八  
寸。徑二寸四五  
分。革ニテ丸ク  
作ル。金具ハ白  
メ流シ之。或ハ  
平ク作ルモアリ

ユニサ 服差ノ類也。正身ハナシ  
木ヲケツリテ指込置之

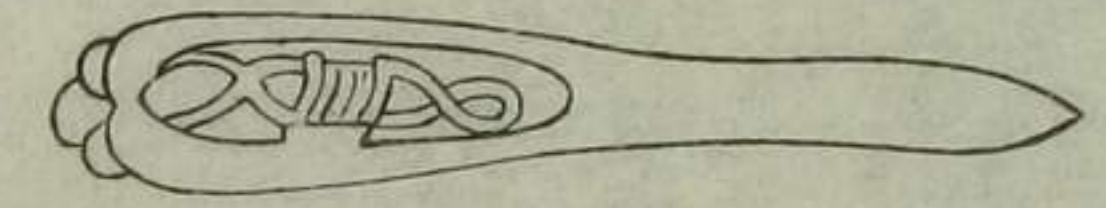


裏表ニ小刀横アリ長一寸五六分

柄ノ長サ五寸。鞘一尺五六寸。幅一寸七八分。厚サ三四分  
惣金具ハ薄真鍮打出シ。模様柄頭ハ白メ流

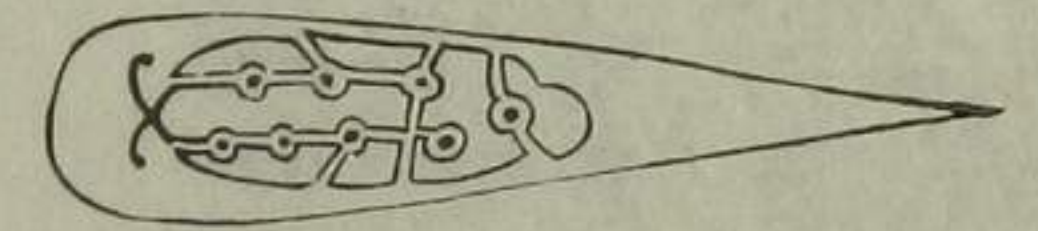


筭  
カウガイ



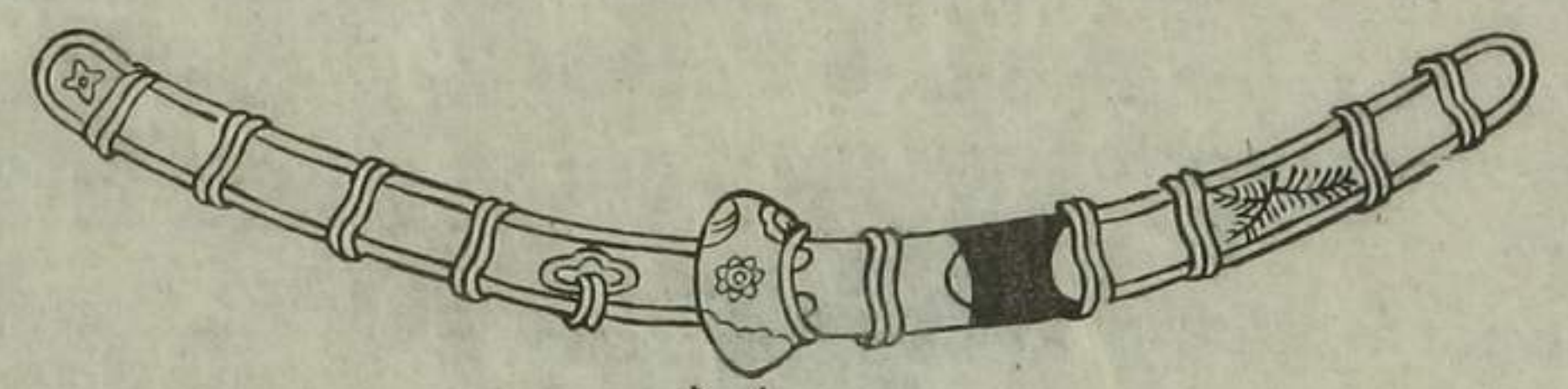
模様ハ銀ノ置彫也  
幅五分余長サ六寸  
計、樋ノ中ハ赤銅ナ  
々子ニ是全ク日本  
細工ナリ

同



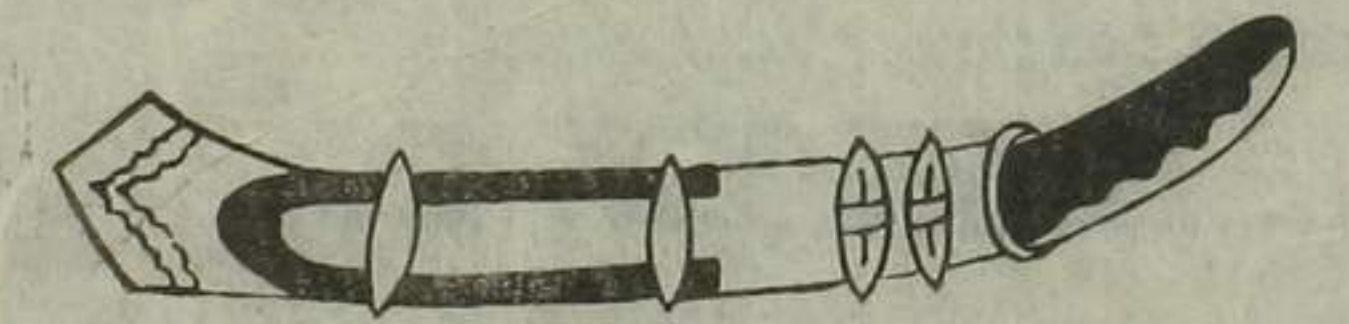
模様スカシ彫幅  
七八分長サ五寸  
余惣地真鍮  
右何レモユマサ  
ノ小刀櫃ニ指ニ

エモシツホ 是ハ正真ノ身アリ



柄ノ長五寸鞘ノ  
長一尺三寸幅一  
寸二分厚四分  
クリカタ  
白メ流シ

サスガキキリ小刀ノ類ニ

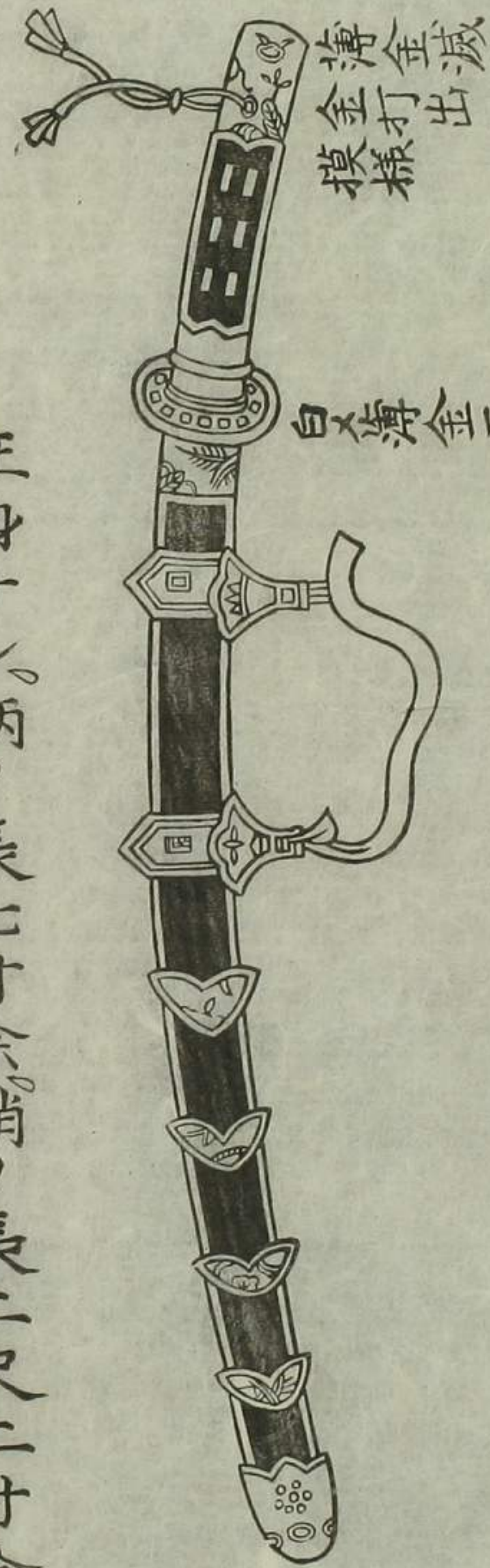


又四寸計柄一尺  
二寸鹿角ヲ以テ  
鞘トス



蝦夷太刀

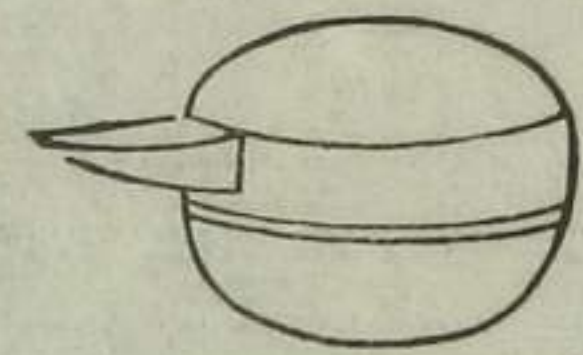
惣金具或ハ真鍮或ハ白メ



正身十シ。柄ノ長七寸余。鞘ノ長二尺二寸余  
幅一寸二分。鐔二寸五分

鈔子

ヒゲ子  
髭上

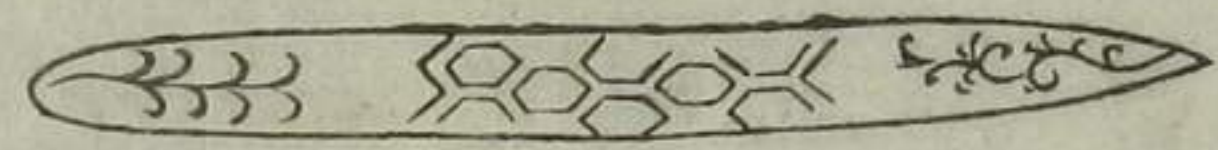


徑五寸五六分  
深サ二寸計

盃



徑三寸余  
深一寸五六分



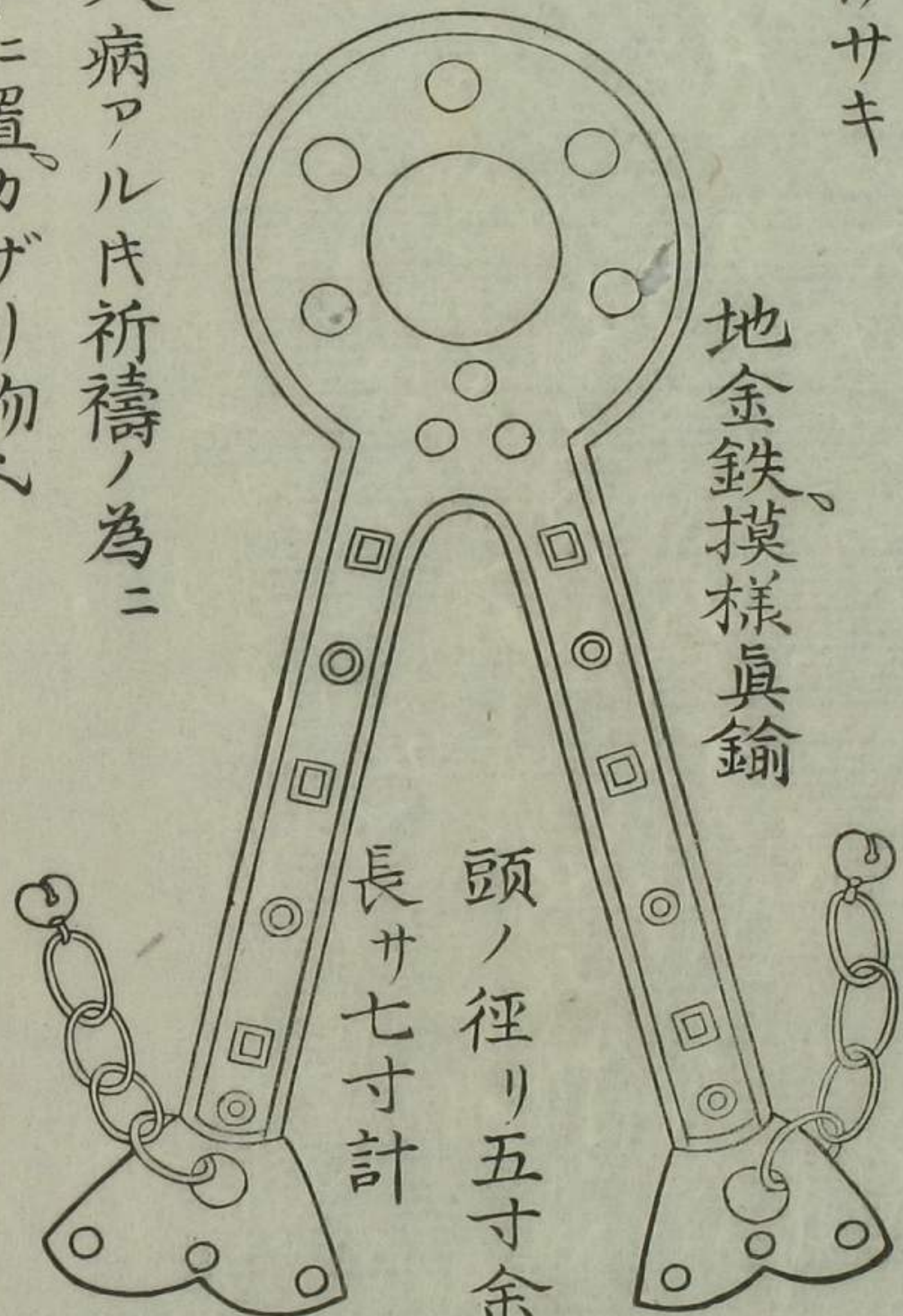
長サ一尺二寸余  
幅六七分。彫モノ  
アリ夷人酒ヲ飲  
片此物ニテ髭ヲ  
スクイ上テノム  
ト云リ

蝦夷国ニ酒ナシ本邦ノ商船夷物ト交易スル片ハ酒一升  
ニ水二升ヲ加テ与フト云リ



クワサキ

地金鉄模様真鍮



頭ノ徑リ五寸余。両脚ノ長サ七寸計

夷人病アル氏祈禱ノ為ニ枕本ニ置カザリ物ニ

懸刀

平身作無刃

此懸緒  
蝦夷ニ  
テ織ニ  
日本ノ  
サナダ  
打ノゴ  
トシ



鎧ハ角ニ

鞘ハ革卷模様ハ朱黒相雜ルナリ。○鞘ノ幅一寸五分



此緒ヲ  
筋違ニ  
肩ニ掛  
ル也



太刀ノ長二尺余。柄ノ長  
七寸計。掛緒ノ幅二寸余

鍔ハ三枚重。  
柄ハ黒革巻

人死ル氏葬送畢テ。一類ノ者氏集リテ其施主タル人ノ頭ヲ  
此刀ニテ一打ツ。打テ血ヲ出ス。是不孝。不悌等ノ罪ヲ攻ル心ナ  
リト云リ是ヲメカ打ト云

シヨキ子棒

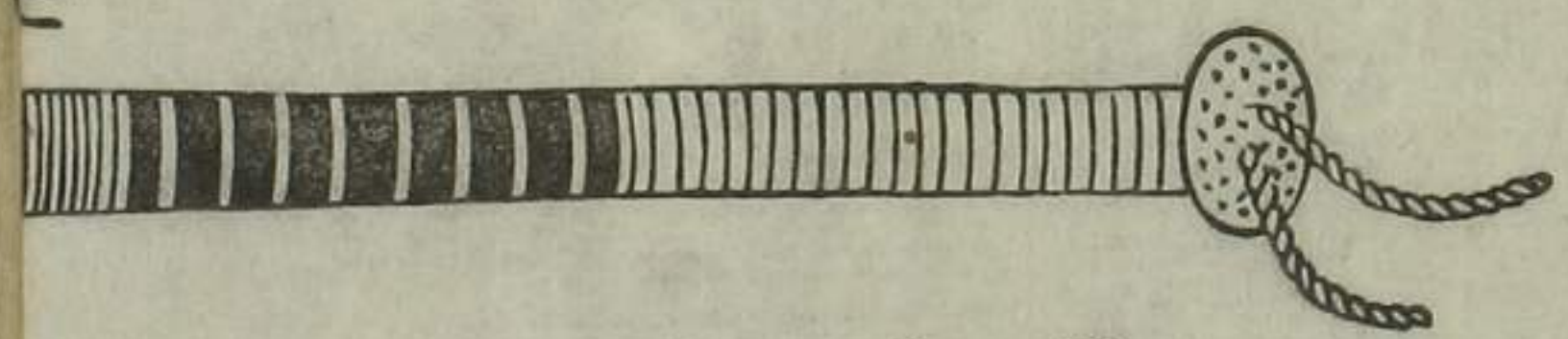
戦ニ用ユ足ノ  
甲ヲ突ト云



長サ六尺計  
頭ノ太サ四  
寸。持ツ所ハ  
一寸余

スツウ子棒

メカ打ニモ用ユ



長サ二尺四五  
寸。太サ一寸七  
八分



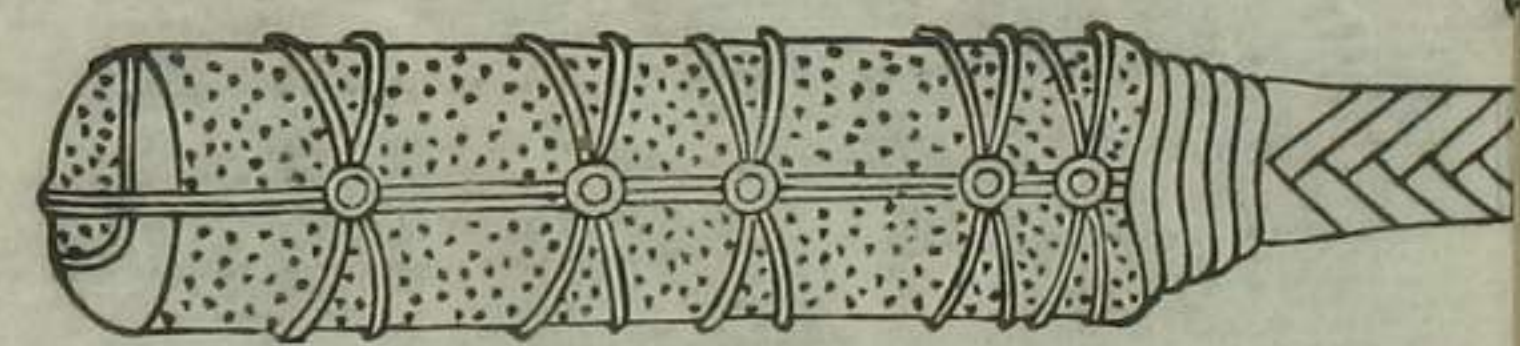
此島ニ無人嶋木々地圖ハ別ニ一枚ニ作テ此卷ニ附

無人嶋ハ伊豆ノ辰己二百七十里ニ在○伊豆国下田ヨリ三  
宅嶋へ十三里○三宅嶋ヨリ新嶋へ七里○新嶋ヨリ三倉  
嶋へ五里○三倉嶋ヨリ八丈嶋へ四十一里○八丈ヨリ北  
ノ無人嶋へ九百八十里南ノ無人嶋へ二百里  
八丈ヨリ無人嶋へ渡ル洋中ニ五嶋アレ凡只一大石山ニシ  
テ産物ナシ

此嶋本名小笠原嶋ト云凡世奉テ無人嶋ト称  
スル故稱ニ隨テ無人嶋ト表スル小笠原嶋  
ト名ツケシハ昔時小笠原某此嶋ヲ見出シ  
テ地圖ヲ持飯シ故名付シ也○二百年前伊太  
里巫人メガラニユスト云者南方ニ新世界ヲ  
見付タルヲ直ニメガラニカト名ツケタルガ如シ



惣色黒シ



處々糸ニテ  
卷ナリ



三倉嶋ヨリ八丈嶋へ渡ル洋中ニ黒瀬川ト云テ急流ノ瀬アリ  
舟人ヲ難所トスル處之図ヲ見テ知ベシ一六〇山ノ  
嶋々大小都テ八十九山アリ其中大嶋二中嶋四小嶋四此十  
嶋ハ土地廣ク草木多ク處々平地有テ人居住スベシ其余  
七十余嶋ハ岩石嶮峻ノ小嶋ナル故ニ人居住スルコトアタ  
ハズ只産物ヲ探ルベシ  
此嶋二十七度ノ暖地ナル故ニ山嶺澗谷ト云ヒ猶菽麥梁稗  
蕃諸芋ヲ植ベシ又鳥臼木ヲ植テ蠟ヲ得ベシ又漁獵ニ珍  
ヲ得ヘシ  
此嶋ニ産スル草木及ビ諸物下ニ記ス然レ凡獸類ハ絶テ無

ト云リ○木ニハ根本ニテ一圍計有テ高キヲ三十余尋ノ  
堅木アリ是珍トスベシ又櫻栢ヒトカニニ似テ甚高キ木アリ椰子  
樹檳榔木白欒子カキヤンノ木栴檀樹榎木樟木山柿藤ノ  
葉ニ似タル大木桂樹桑木等也○草ニハ山飯來當飯ニ似  
タル草丸葉ノ牽牛花等也○鳥ニハ音呼イシコニ似タル鳥五位  
鷺ニ似タル鳥梅首雞ニ似タル鳥白鷗ニ似テ大サ三尺余  
ノ大鳥等々都テ此嶋ノ鳥ハ皆徒手ニシテ捕ヘラルト  
去リ○石ニハ明岩綠岩五色石菊面石此外異石多○海産  
ニハ鯨魚大海老大牡蠣海膽等也右ノ外産品猶多  
此無人嶋ハ延宝三年肥前国長崎ニ於テ唐船仕立ノ船ヲ造



嘗有テ其船ヲ伊豆國へ廻シ長崎ノ住人嶋谷市左衛門中  
尾庄左衛門嶋谷太郎左衛門此三人ハ學術有テ天文地理ヲ知者也江戸小網  
町ノ大工八兵衛等ヲ首立トシテ惣人数三十余人御印ノ  
旗ヲ賜テ同年潤四月五日伊豆ノ下田ヲ出帆シ先ツ八丈  
ニ至テワレヨリ段々東南ノ洋中ヲ探テ終ニ八十餘嶋ヲ  
見定メ嶋ノ大小天度ノ高下草木産物等ヲ詳ニシテ同年  
六月二十日再ヒ伊豆ノ下田江飯帆スト云リ此ニ記ス所  
ハ彼ノ嶋谷家ノ記録ニ據モノ也○私按ニ彼ノ嶋谷家ノ  
記録ニ黒瀬川ノヲヲ不言黒瀬川ハ三倉嶋ト八丈嶋トノ  
中間ニアリ幅二十餘町有テ東西百里ニ渡リタル大急流

黒潮ナリ此瀬ヲ乗切フ大ニ心得アルヲト聞及ヘリ然レ  
氏夏秋ハ此瀬ノ流レ穩カク冬春ハ大急流ナリト云リ嶋  
谷家ノ者氏無人嶋へ渡リシハ潤四月初旬ニ下田ヲ出帆  
シテ同年ノ六月下旬同所へ飯帆スル氏ハ此瀬ノ穩カク  
ル時節故此瀬ノ難所ヲ不見シテ乗過シト思ハル此故ニ  
不記歟○私按ニ彼ノ嶋八十餘嶋ノ中第一ノ大嶋廻リ十  
五里十ル氏ハ壹岐嶋ニ比スヘシ其次ノ大嶋廻リ十里十  
ル氏ハ天草嶋ニ比スベシ其餘廻リ二里以上六七里ニ及  
ブモノハ嶋有都テ此十嶋ハ濔アリ平地アリ人居住スベ  
シ五穀植ベシ且暖氣ノ邊地ナル故珍異ノ物ヲ産スル也



其餘七十余山、六岩石小嶋ナレ、亦復小シ物ヲ産スルニ是ニ因テ竊ニ工夫スレバ此嶋へ人ヲ蒔テ樹藝ヲ為、村落ヲ建立シテ山海ノ業ヲ起シ一州ノ産物國ヲ仕立テ後、此嶋渡海ノ常船ヲ造テ歳ニ渡海シテ産物ヲ收ムベシ船ヲ造ルノ費ハ一渡海ニテ償フベシ是尋常商估ノ知サル所ナル故、後業ノ為ニ此ニ記ス、願ハ好事ノ商估憤発シテ此業ヲ興サハ巨萬ノ利、目前ニアルベシ勉之勉之安永年中小子肥前ノ鎮臺館ニ遊事シテ崎陽ニ至リ和蘭人ア、レント左ルレヘイトニ會フ、ヘイト其地理書ゼオガラーヒノ説ヲ談ジテ、日本ノ辰己二百余里ニ嶋アリ、ウーラスト、エーランドト名ヅク、ウーラストハ荒地、エーランドハ

嶋ノフ也ト語レリ、又言テ曰此嶋無人ナレ、凡草木多キヲ見レバ不毛トハ言難シ、日本ヨリ人ヲ蒔テ一州ノ地ト為テ五穀産物等ヲ仕立バ海遠カラザル故、大利アルベシ、和蘭ヨリ、コンハンヤヲ立ルニハ海遠ク國小ニシテ費ニアタラズト云リ、小子ヘイトガ言ヲ然リトス、仍テ亦復参考ノ為ニ此ニ記耳、無人嶋畧説大尾

右惣計五圖四説

天明五年乙巳秋

仙臺

林子平圖 兼説





右三国通覧圖說ハ小子敢テ經濟ヲ言ニ非ズ亦妄リニ地  
理ノ學ヲ玩ブニモ非ズ。只武門ニ携ハレル人ヲシテ三隣ノ  
地理ヲ知シメンコトヲ欲スル耳。是武藝ノ余計ナルニ  
似タレ。凡僥ラ竊ニ憶ヘバ却テ武門ノ奥旨凡言ベキ歟。觀者  
以テ經濟ノ書トスルコト勿レ同年林子平自ラ一句ヲ跋ニ言テ爾

室町三町目

天明丙午夏 東都書林 須原屋市兵衛梓

此ノ書ハ...



